

注3

大学番号：私立020

[平成31年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

医療創生大学 健康医療科学部 作業療法学科・理学療法学科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人医療創生大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 企画課

職名・氏名 ショキ スズキ トモヒロ
書記・鈴木 智博

電話番号 0246-29-5327

（夜間） 0246-29-5111

F A X 0246-29-5105

e-mail kikaku@isu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

健康医療科学部

<作業療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	35

<理学療法学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	39
2. 授業科目の概要	43
3. 施設・設備の整備状況、経費	50
4. 既設大学等の状況	51
5. 教員組織の状況	53
6. 附帯事項等に対する履行状況等	69
7. その他全般的事項	76

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人医療創生大学

(2) 大学名

医療創生大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒970-8551

福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1

(〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (平成31年4月)		
学長	(ヤマザキ ヨウジ) 山崎 洋次 (平成25年4月)	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)	学長の交代 令和2年4月1日(2)
学部長	(ゴウ アー チェン) GOH AH CHENG (平成31年4月)		
学科長等	(ヤナギハシ リュウヤ) 楊箸 隆哉 (平成31年4月)	(キタヤマ アツシ) 北山 淳 (令和2年4月)	学科主任の交代 令和2年4月1日(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康医療科学部 作業療法学科 学士(作業療法)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4年	40人	— 年次 — 人	160人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均入学定員超過率							
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	40 (—) [—]	40 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	93 (—) [—]	— (—) [—]	0.72倍	—倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	50 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	93 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	50 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	92 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	48 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	84 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	20 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	38 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	0.50	—	—	—	0.95	—			

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	20 [—] (—)	— [—] (—)	42 [2] (4)	— [—] (—)	R2年度 1年次 (入学38名+留年4名)
2 年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	16 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次	/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次	/		/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	20 [—] (—)	— [—] (—)	58 [2] (4)	— [—] (—)	

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	20 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
令和2年度	44 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{0}}{\text{20}} = \boxed{\text{0}} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{0}}{\text{44}} = \boxed{\text{0}} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康医療科学部 作業療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
全学共通教育科目	フレッシュアーズセミナー	1前	2						2		
	日本語リテラシー	1前	1								3
	コンピュータリテラシー	1前	1								2
	英語A1	1前	1								3
	英語A2	1後	1								3
	英語B1	1前	1								3
	英語B2	1後	1								3
	英語C1	4前	1								3
	英語C2	4後	1								3
	中国語1	2前		1							1
	中国語2	2後		1							1
	韓国語1	2前		1							1
	韓国語2	2後		1							1
	健康の科学	1前	2								1
	健康・スポーツ1	1前	1								1
	健康・スポーツ2	1後	1								1
	哲学の世界	1前		2							1
	ことばの科学	1前		2							1
	心理学概論	1前		2							1
	世界の歴史と文化	1前		2							1
	倫理学の世界	1後	2								1
	芸術の世界	1後		2							1
	文学の世界	1後		2							1
	日本の歴史と文化	1後		2							1
	法学入門	1前		2							1
	経済学入門	1前		2							2
	社会学入門	1前		2							1
	災害からの復興	1前		2							3
	暮らしのなかの憲法	1後		2							1
	経営学入門	1後		2							1
	ジェンダー論	1後		2							1
	政治学入門	1後		2							1
	自然科学のあゆみ	1前		2							2
健康と薬	1前		2							3	
統計のしくみ	1前		2							1	
生命の科学	1後		2							4	
食品の科学	1後		2							2	
地球環境の科学	1後		2							1	
小計(38科目)	-		16	46	0						
専門教育科目	人体の構造Ⅰ	1前	2			1					
	人体の構造Ⅱ	1後	2			1					
	人体の構造演習	2前	1			1			1		
	人体の機能Ⅰ	1前	2			1					
	人体の機能Ⅱ	1後	2			1					
	人体の機能演習	2前	1			1			1		
	運動学	1後	2				1				
	運動学演習	2前	1						1		
	心理生理学	2前	1			1					
	人間発達学	1後	2			1					
	リハビリテーション医学	1後	2								2
	病理学	2前	1								1
	薬理学	2後	2			1					
	救急処置法	2後	1								1
	神経内科学	2前	2								1
	整形外科学	2前	2								1
	小児科学	2後	2								1
精神医学	2前	2			1						
臨床心理学	2前	2								1	
老年医学	2後	2								1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュアーズセミナー	1前	2					1			1	
	日本語リテラシー	1前	1									6
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									3
	英語A2	1後	1									3
	英語B1	1前		1								3
	英語B2	1後		1								3
	英語C1	4前		1								3
	英語C2	4後		1								3
	中国語1	2前		1								1
	中国語2	2後		1								1
	韓国語1	2前		1								1
	韓国語2	2後		1								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1前		1								2
	健康・スポーツ2	1後		1								2
	哲学の世界	1前		2								1
	ことばの科学	1前		2								1
	心理学概論	1前		2								1
	世界の歴史と文化	1前		2								1
	倫理学の世界	1後	2									1
	芸術の世界	1後		2								1
	文学の世界	1後		2								1
	日本の歴史と文化	1後		2								1
	法学入門	1前		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	社会学入門	1前		2								1
	災害からの復興	1前		2								3
	暮らしのなかの憲法	1後		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	ジェンダー論	1後		2								1
	政治学入門	1後		2								1
	自然科学のあゆみ	1前		2								1
健康と薬	1前		2								3	
統計のしくみ	1前		2								1	
生命の科学	1後		2								5	
食品の科学	1後		2								3	
地球環境の科学	1後		2								1	
小計(38科目)	-		12	50	0							
専門教育科目	人体の構造Ⅰ	1前	2			1						
	人体の構造Ⅱ	1後	2			1						
	人体の構造演習	2前	1			2				0		
	人体の機能Ⅰ	1前	2			1						
	人体の機能Ⅱ	1後	2			1						
	人体の機能演習	2前	1			1				1		
	運動学	1後	2				1					
	運動学演習	2前	1							1		
	心理生理学	2前	1			1						
	人間発達学	1後	2			1						
	リハビリテーション医学	1後	2								2	
	病理学	2前	1								1	
	薬理学	2後	2			1						
	救急処置法	2後	1								1	
	神経内科学	2前	2								1	
	整形外科学	2前	2								2	
	小児科学	2後	2								1	
精神医学	2前	2			0							
臨床心理学	2前	2								1		
老年医学	2後	2								2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	社会福祉学概論	1後	1						1			
	公衆衛生学	2後	2								1	
	チーム医療と医療安全	3前	1			1		1	1			
	リハビリテーション概論	1前	1			1						
	作業療法学概論	1前	1			1						
	作業療法の教育と管理	4前	1			1	1					
	作業療法基礎理論	1後	1			1						
	リスク管理論	3後	1				1					
	健康医療科学研究方法論1	1後	1			1						
	健康医療科学研究方法論2	2後	1			1						
	作業科学演習	1後	1						2			
	卒業研究 I	3通	2			2	1		1			
	卒業研究 II	4通	2			2	1		1			
	作業評価学	1後	1				1		1			
	身体機能評価学演習 I	1後	1				1					
	身体機能評価学演習 II	2前	1			1						
	精神機能評価学	2前	1			1						
	精神機能評価学演習	2後	1					1				
	発達機能評価学演習	2後	1			1						
	臨床推論演習	3前	1					2	3			
	生活と作業療法学	2後	1				1					
	生活と作業療法学演習	3前	1						1			
	身体機能作業療法学 I	2前	2				1					
	身体機能作業療法学 II	2後	2								1	
	身体機能作業療法学演習	3前	1				1		1			
	精神機能作業療法学	2後	2			1						
	精神機能作業療法学各論	3後	1			1						
	精神機能作業療法学演習	3前	1					1				
	老年期作業療法学	2後	2					1				
	老年期作業療法学演習	3前	1						1			
	発達と作業療法学	2後	1			1						
	発達と作業療法学演習	3前	1			1						
	義肢装具学演習	2前	1				1					
スプリント	2前	1				1						
スプリント製作演習	2前	1				1						
高次脳機能治療学	3後	1								1		
作業療法セミナー I	4前	2					1	3				
作業療法セミナー II	4後	2					1	3				
特別支援教育と作業療法	1後	2			1							
地域作業療法学	2前	2				1						
地域作業療法学演習	2後	1						1				
住環境整備論	2後	1		1			1	1				
地域保健マネジメント論	4前	1					1					
就労支援と作業療法演習	3前	1						1				
見学実習	1後	1			1			1				
地域包括ケアシステム実習	2後	1					1	2				
評価学実習	3通	3				1		1				
臨床実習 I	3後	8			1		1					
臨床実習 II	4前	8			1		1					
小計(69科目)	-	102	8	0								
合計(107科目)	-	118	54	0								
卒業要件及び履修方法												
必修科目118単位、全学共通教育科目の選択科目から4単位、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	社会福祉学概論	1後	1						1			
	公衆衛生学	2後	2								1	
	チーム医療と医療安全	3前	1			0		1	1			
	リハビリテーション概論	1前	1				1					
	作業療法学概論	1前	1				1					
	作業療法の教育と管理	4前	1			1	1					
	作業療法基礎理論	1後	1				1					
	リスク管理論	3後	1			1			1			
	健康医療科学研究方法論1	1後	1				1					
	健康医療科学研究方法論2	2後	1				1					
	作業科学演習	1後	1				1				1	
	卒業研究 I	3通	2				1	1	1		1	
	卒業研究 II	4通	2				1	1	1		1	
	作業評価学	1後	1				1	1			0	
	身体機能評価学演習 I	1後	1					1				
	身体機能評価学演習 II	2前	1				1					
	精神機能評価学	2前	1				1					
	精神機能評価学演習	2後	1						1			
	発達機能評価学演習	2後	1				1					
	臨床推論演習	3前	1						2	2		
	生活と作業療法学	2後	1					1				
	生活と作業療法学演習	3前	1							1		
	身体機能作業療法学 I	2前	2					1				
	身体機能作業療法学 II	2後	2								1	
	身体機能作業療法学演習	3前	1					1			1	
	精神機能作業療法学	2後	2				1					
	精神機能作業療法学各論	3後	1				1					
	精神機能作業療法学演習	3前	1						1			
	老年期作業療法学	2後	2						1			
	老年期作業療法学演習	3前	1						1	0		
	発達と作業療法学	2後	1				1					
	発達と作業療法学演習	3前	1				1					
	義肢装具学演習	2前	1					1				
スプリント	2前	1					1					
スプリント製作演習	2前	1					1					
高次脳機能治療学	3後	1								1		
作業療法セミナー I	4前	2						1	2			
作業療法セミナー II	4後	2						1	2			
特別支援教育と作業療法	1後	2					1					
地域作業療法学	2前	2						1				
地域作業療法学演習	2後	1						1	0			
住環境整備論	2後	1		1			1	1				
地域保健マネジメント論	4前	1						1				
就労支援と作業療法演習	3前	1							1			
見学実習	1後	1					2			0		
地域包括ケアシステム実習	2後	1					1	1	1			
評価学実習	3通	4					1		1			
臨床実習 I	3後	8				1		1				
臨床実習 II	4前	8				1		1				
小計(69科目)	-	106	5	0								
合計(107科目)	-	118	55	0								
卒業要件及び履修方法												
必修科目119単位、全学共通教育科目の選択科目から2単位、専門教育科目の選択科目から3単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュワーズセミナー	1前	2			1			1			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									3
	英語A2	1後	1									3
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	4前	1									3
	英語C2	4後	1									3
	中国語1	2前		1								1
	中国語2	2後		1								1
	韓国語1	2前		1								1
	韓国語2	2後		1								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1前	1									1
	健康・スポーツ2	1後	1									1
	哲学の世界	1前		2								1
	ことばの科学	1前		2								1
	心理学概論	1前		2								1
	世界の歴史と文化	1前		2								1
	倫理学の世界	1後	2									1
	芸術の世界	1後		2								1
	文学の世界	1後		2								1
	日本の歴史と文化	1後		2								1
	法学入門	1前		2								1
	経済学入門	1前		2								1
	社会学入門	1前		2								1
	災害からの復興	1前		2								3
	暮らしのなかの憲法	1後		2								1
	経営学入門	1後		2								1
	ジェンダー論	1後		2								1
	政治学入門	1後		2								1
	自然科学のあゆみ	1前		2								3
	健康と薬	1前		2								3
	統計のしくみ	1前		2								1
	生命の科学	1後		2								5
	食品の科学	1後		2								2
	地球環境の科学	1後		2								1
小計(38科目)	-		16	46	0							
専門教育科目	人体の構造 I	1前	2			1						
	人体の構造 II	1後	2			1						
	人体の構造演習	2前	1			2			0			
	人体の機能 I	1前	2			1						
	人体の機能 II	1後	2			1						
	人体の機能演習	2前	1			1			1			
	運動学	1後	2				1					
	運動学演習	2前	1						1			
	心理生理学	2前	1			1						
	人間発達学	1後	2			1						
	リハビリテーション医学	1後	2									2
	病理学	2前	1									1
	薬理学	2後	2			1						
	救急処置法	2後	1									1
	神経内科学	2前	2									1
	整形外科学	2前	2									1
	小児科学	2後	2									1
精神医学	2前	2			1							
臨床心理学	2前	2									1	
老年医学	2後	2									1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	社会福祉学概論	1後		1						1			
	公衆衛生学	2後		2								1	
	チーム医療と医療安全	3前		1		1			1	0			
	リハビリテーション概論	1前		1		1							
	作業療法学概論	1前		1		1							
	作業療法の教育と管理	4前		1		1	1						
	作業療法基礎理論	1後		1		1							
	リスク管理論	3後		1			1						
	健康医療科学研究方法論1	1後		1		1							
	健康医療科学研究方法論2	2後		1		1							
	作業科学演習	1後		1		1				1			
	卒業研究Ⅰ	3通		2		2	1			1			
	卒業研究Ⅱ	4通		2		2	1			1			
	作業評価学	1後		1		1	1			0			
	身体機能評価学演習Ⅰ	1後		1			1						
	身体機能評価学演習Ⅱ	2前		1		1							
	精神機能評価学	2前		1		1							
	精神機能評価学演習	2後		1				1					
	発達機能評価学演習	2後		1		1							
	臨床推論演習	3前		1				2		2			
	生活と作業療法学	2後		1				1					
	生活と作業療法学演習	3前		1					1				
	身体機能作業療法学Ⅰ	2前		2			1					1	
	身体機能作業療法学Ⅱ	2後		2									
	身体機能作業療法学演習	3前		1		1			1				
	精神機能作業療法学	2後		2		1							
	精神機能作業療法学各論	3後		1		1							
	精神機能作業療法学演習	3前		1				1					
	老年期作業療法学	2後		2				1					
	老年期作業療法学演習	3前		1						0			
	発達と作業療法学	2後		1		1							
	発達と作業療法学演習	3前		1		1							
	義肢装具学演習	2前		1			1						
	スプリント	2前		1			1						
	スプリント製作演習	2前		1			1						
	高次脳機能治療学	3後		1								1	
	作業療法セミナーⅠ	4前		2				1		2			
	作業療法セミナーⅡ	4後		2				1		2			
	特別支援教育と作業療法	1後		2		1							
	地域作業療法学	2前		2				1					
	地域作業療法学演習	2後		1						0			
	住環境整備論	2後		1				1		1			
	地域保健マネジメント論	4前		1				1					
	就労支援と作業療法演習	3前		1						1			
	見学実習	1後		1		2				0			
	地域包括ケアシステム実習	2後		1		1			1	1			
	評価学実習	3通		3				1		1			
	臨床実習Ⅰ	3後		8			1		1				
	臨床実習Ⅱ	4前		8			1		1				
	小計(69科目)	-		102	8	0							
	合計(107科目)	-		118	54	0							
	卒業要件及び履修方法												
	必修科目118単位、全学共通教育科目の選択科目から4単位、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 就任辞退の理由により、「フレッシュャーズセミナー」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「フレッシュャーズセミナー」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・ 辞任の理由により、「経済学入門」の兼任・兼担の配置を「2」から「1」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「自然科学のあゆみ」の兼任・兼担の配置を「2」から「3」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「生命の科学」の兼任・兼担の配置を「4」から「5」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「人体の構造演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「人体の構造演習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「チーム医療と医療安全」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教1」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「作業科学演習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「作業科学演習」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「作業評価学」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「作業評価学」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「臨床推論演習」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「老年期作業療法演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「作業療法セミナーⅠ」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「作業療法セミナーⅡ」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「地域作業療法演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「見学実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「見学実習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「地域包括ケアシステム実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「地域包括ケアシステム実習」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
--

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員補充の理由により、「日本語リテラシー」の兼任・兼担の配置を「3」から「6」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語B1」の単位数を「必修」から「選択」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語B2」の単位数を「必修」から「選択」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語C1」の単位数を「必修」から「選択」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語C2」の単位数を「必修」から「選択」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「健康・スポーツ1」の単位数を「必修」から「選択」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「健康・スポーツ2」の単位数を「必修」から「選択」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「健康・スポーツ1」の兼任・兼担の配置を「1」から「2」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「健康・スポーツ2」の兼任・兼担の配置を「1」から「2」に変更。 ・ 教育内容充実の理由により、「生命の科学」の兼任・兼担の配置を「3」から「5」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「食品の科学」の単位数を「選択」から「必修」に変更。 ・ 教育内容充実の理由により、「食品の科学」の兼任・兼担の配置を「2」から「3」に変更。 ・ 教員退職の理由により、「自然科学のあゆみ」の兼任・兼担の配置を「3」から「1」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「整形外科学」の兼任・兼担の配置を「1」から「2」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「精神医学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「老年医学」の兼任・兼担の配置を「1」から「2」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「社会福祉学概論」の単位数を「選択」から「必修」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「チーム医療と医療安全」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「助教0」から「助教1」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「作業療法の教育と管理」の単位数を「選択」から「必修」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「卒業研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。 ・ 就任辞退の理由により、「卒業研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「老年期作業療法演習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「高次脳機能治療学」の単位数を「選択」から「必修」に変更。 ・ 教員補充の理由により、「地域作業療法演習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「評価学実習」の単位数を「3」から「4」に変更。
--

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
74 科目	33 科目	0 科目	107 科目	[Δ 2] 科目	[2] 科目	[0] 科目	107 科目	令和2年 指定規則の改正に伴う教育課程の 変更

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：Δ1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{107} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	123,105.00㎡	0㎡	0㎡	123,105.00㎡			
	運動場用地	23,800.00㎡	0㎡	0㎡	23,800.00㎡			
	小 計	146,905.00㎡	0㎡	0㎡	146,905.00㎡			
	そ の 他	309,448.86㎡	0㎡	0㎡	309,448.86㎡			
	合 計	456,353.86㎡	0㎡	0㎡	456,353.86㎡			
(2) 校 舎	専 用	44,822.15㎡ 44,165.15㎡ (44,822.15㎡) -(44,165.15㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	44,822.15㎡ 44,165.15㎡ (44,822.15㎡) -(44,165.15㎡)	大学全体 令和2年4月 心理学部設置に伴う用途変更のため(2)		
	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 令和2年4月 心理学部及び生命理工学研究科設置に伴う用途変更のため(2)		
(3) 教 室 等	41 室 40 室	32 室	124 室 121 室	3 室 (補助職員 1人)	1 室 (補助職員 1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	健康医療科学部 作業療法学科			11 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	令和2年4月 当初、紙媒体で購入予定 だった学術雑誌を電子 ジャーナルに変更(2)
	健康医療科学部 作業療法学科	984 [80] (764 [60]) -(544 [40])	17 [6] (17 [6]) -(14 [3])	4 [4] 3 [3] (4 [4]) -(0 [0])	20 (20)	202 (202)	31 (31)	令和2年4月 図書・学術冊子設置(2)
	計	984 [80] (764 [60]) -(544 [40])	17 [6] (17 [6]) -(14 [3])	4 [4] 3 [3] (4 [4]) -(0 [0])	20 (20)	202 (202)	31 (31)	
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	5,052.81㎡ 5,109.81㎡		448 438		288,000		平成31年4月 用途変更のため(元)	
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体
	4,513.16㎡		野球場1面、テニスコート10面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	10,402千円	9,761千円	4,861千円
	共 同 研 究 費 等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	273,258千円	- 千円	- 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	- 千円	- 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	医療創生大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(学部)											
科学技術学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
科学技術学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	—	—	平成22年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止 (科学技術学科)
人文学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
表現文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	—	平成17年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止
心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	—	—	平成13年度	同上	(表現文化学科・ 心理学科)
薬学部	6	90	—	540	—	0.83	0.54	—	平成19年度	—	
薬学科	6	90	—	540	学士 (薬学)	0.83	0.54	—	平成19年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成23年4月より 入学定員変更 (薬学科150→90)
教養学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域教養学科	4	—	—	—	学士 (教養)	—	—	—	平成27年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成31年4月より 学生募集停止
看護学部	4	80	—	320	—	1.06	0.95	—	平成29年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.06	0.95	—	平成29年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
健康医療科学部	4	100	—	400	—	0.93	1.07	—	平成31年度	—	
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.72	0.95	—	平成31年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.07	1.15	—	平成31年度	同上	
心理学部	4	60	—	240	—	0.56	0.56	—	令和2年度	—	
臨床心理学科	4	60	—	240	学士 (心理学)	0.56	0.56	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
大学全体	—	330	—	1,500	—	—	—	—	—	—	

既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
(大学院)											
理工学研究科											
(修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理学専攻	2	—	—	—	修士 (理学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (物質理学専攻・ 物理工学専攻)
物理工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	—	平成4年度	同上	
(博士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理工学専攻	3	—	—	—	博士 (理工学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
生命理工学研究科											
(修士課程)	2	5	—	10	—	0.60	0.60	—	令和2年度	—	
生命理工学専攻	2	5	—	10	修士 (生命理工学)	0.60	0.60	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
(博士後期課程)	3	2	—	6	—	1.50	1.50	—	令和2年度	—	
生命理工学専攻	3	2	—	6	博士 (生命理工学)	1.50	1.50	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
人文学研究科											
(修士課程)	2	10	—	20	—	0.15	0.15	—	平成4年度	—	
日本文学専攻	—	—	—	—	修士 (日本文学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (日本文学専攻・ 英米文学専攻・ 社会学専攻)
英米文学専攻	—	—	—	—	修士 (英米文学)	—	—	—	平成7年度	同上	
社会学専攻	—	—	—	—	修士 (社会学)	—	—	—	平成4年度	同上	
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.15	0.15	—	平成17年度	同上	
(博士課程)	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日本文学専攻	3	—	—	—	博士 (日本文学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
大学院全体	—	17	—	36	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<健康医療科学部 作業療法学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	楊 肇 隆哉 <平成31年4月> 医学博士
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習 人体の機能演習 心理生理学 健康医療科学研究方法論1 健康医療科学研究方法論2 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	宮本 聖也 <平成32年4月> 博士(医学)
		精神医学 チーム医療と医療安全 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	平藤 雅彦 <平成31年4月> 薬学博士
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 薬理学
専	教授	北山 淳 <平成31年4月> 博士(医学)
		人間発達学 作業療法基礎理論 身体機能評価学演習Ⅱ 発達機能評価学演習 発達と作業療法学 発達と作業療法学演習 特別支援教育と作業療法 見学実習 臨床実習Ⅱ

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	楊 肇 隆哉 <平成31年4月> 医学博士
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習 人体の機能演習 心理生理学 健康医療科学研究方法論1 健康医療科学研究方法論2 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション医学 見学実習
専	教授	宮本 聖也 <平成32年4月> 博士(医学)
		精神医学 チーム医療と医療安全 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	平藤 雅彦 <平成31年4月> 薬学博士
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 薬理学
専	教授	北山 淳 <平成31年4月> 博士(医学)
		人間発達学 作業療法基礎理論 身体機能評価学演習Ⅱ 発達機能評価学演習 発達と作業療法学 発達と作業療法学演習 特別支援教育と作業療法 見学実習 臨床実習Ⅱ フレッシュャーズセミナー 人体の構造演習 作業科学演習 作業評価学 地域包括ケアシステム実習

【令和2年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	楊 肇 隆哉 <平成31年4月> 医学博士
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 人体の構造演習 人体の機能演習 心理生理学 健康医療科学研究方法論1 健康医療科学研究方法論2 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ リハビリテーション医学 見学実習
専	教授	宮本 聖也 <平成32年4月> 博士(医学)
		精神医学 チーム医療と医療安全 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	平藤 雅彦 <平成31年4月> 薬学博士
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 薬理学
専	教授	北山 淳 <平成31年4月> 博士(医学)
		人間発達学 作業療法基礎理論 身体機能評価学演習Ⅱ 発達機能評価学演習 発達と作業療法学 発達と作業療法学演習 特別支援教育と作業療法 見学実習 臨床実習Ⅱ フレッシュャーズセミナー 人体の構造演習 作業科学演習 作業評価学 地域包括ケアシステム実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	篠田 峯子 〈平成31年4月〉 修士(保健学)
		リハビリテーション概論 作業療法学概論 作業療法の教育と管理 精神機能評価学 精神機能作業療法学 精神機能作業療法学各論 臨床実習Ⅰ
専	准教授	佐藤 真一 〈平成31年4月〉 修士(公共政策)
		運動学 作業療法の教育と管理 リスク管理論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業評価学 身体機能評価学演習Ⅰ 身体機能作業療法学Ⅰ 身体機能作業療法学演習 義肢装具学演習 スプリント スプリント製作演習 評価学実習
専	講師	慶徳 民夫 〈平成31年4月〉 作業療法学修士
		臨床推論演習 生活と作業療法学 老年期作業療法学 地域作業療法学 住環境整備論 地域保健マネジメント論 地域包括ケアシステム実習 臨床実習Ⅰ
専	講師	春山 佳代 〈平成31年4月〉 医科学修士
		チーム医療と医療安全 精神機能評価学演習 臨床推論演習 精神機能作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 臨床実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	篠田 峯子 〈平成31年4月〉 修士(保健学)
		リハビリテーション概論 作業療法学概論 作業療法の教育と管理 精神機能評価学 精神機能作業療法学 精神機能作業療法学各論 臨床実習Ⅰ
専	准教授	佐藤 真一 〈平成31年4月〉 修士(公共政策)
		運動学 作業療法の教育と管理 リスク管理論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業評価学 身体機能評価学演習Ⅰ 身体機能作業療法学Ⅰ 身体機能作業療法学演習 義肢装具学演習 スプリント スプリント製作演習 評価学実習
専	講師	慶徳 民夫 〈平成31年4月〉 作業療法学修士
		臨床推論演習 生活と作業療法学 老年期作業療法学 地域作業療法学 住環境整備論 地域保健マネジメント論 地域包括ケアシステム実習 臨床実習Ⅰ
専	講師	春山 佳代 〈平成31年4月〉 医科学修士
		チーム医療と医療安全 精神機能評価学演習 臨床推論演習 精神機能作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 臨床実習Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	篠田 峯子 〈平成31年4月〉 修士(保健学)
		リハビリテーション概論 作業療法学概論 作業療法の教育と管理 精神機能評価学 精神機能作業療法学 精神機能作業療法学各論 臨床実習Ⅰ
専	准教授	佐藤 真一 〈平成31年4月〉 修士(公共政策)
		運動学 作業療法の教育と管理 リスク管理論 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 作業評価学 身体機能評価学演習Ⅰ 身体機能作業療法学Ⅰ 身体機能作業療法学演習 義肢装具学演習 スプリント スプリント製作演習 評価学実習
専	講師	慶徳 民夫 〈平成31年4月〉 作業療法学修士
		臨床推論演習 生活と作業療法学 老年期作業療法学 地域作業療法学 住環境整備論 地域保健マネジメント論 地域包括ケアシステム実習 臨床実習Ⅰ 老年期作業療法学 老年期作業療法学演習 地域作業療法学演習
専	講師	春山 佳代 〈平成31年4月〉 医科学修士
		チーム医療と医療安全 精神機能評価学演習 臨床推論演習 精神機能作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 臨床実習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	佐々木 充直 <平成31年4月> 修士(地域政策)
		フレッシュャーズセミナー 社会福祉学概論 作業科学演習 臨床推論演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 就労支援と作業療法演習 地域包括ケアシステム実習
専	助教	佐野 博一 <平成32年4月> 修士(芸術)
		人体の機能演習 運動学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床推論演習 生活と作業療法学演習 身体機能作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 住環境整備論 評価学実習
専	助教	井上 忠俊 <平成31年4月> 修士(リハビリテーション学)
		フレッシュャーズセミナー 人体の構造演習 チーム医療と医療安全 作業科学演習 作業評価学 臨床推論演習 老年期作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 地域作業療法学演習 見学実習 地域包括ケアシステム実習
兼任	教授	山崎 洋次 <平成32年4月> 医学博士
		小児科学
兼任	教授	藤原 孝之 <平成31年4月> 博士(工学)
		リハビリテーション医学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	佐々木 充直 <平成31年4月> 修士(地域政策)
		フレッシュャーズセミナー 社会福祉学概論 作業科学演習 臨床推論演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 就労支援と作業療法演習 地域包括ケアシステム実習
専	助教	佐野 博一 <平成32年4月> 修士(芸術)
		人体の機能演習 運動学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床推論演習 生活と作業療法学演習 身体機能作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 住環境整備論 評価学実習
兼任	教授	山崎 洋次 <平成32年4月> 医学博士
		小児科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	佐々木 充直 <平成31年4月> 修士(地域政策)
		フレッシュャーズセミナー 社会福祉学概論 作業科学演習 臨床推論演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 就労支援と作業療法演習 地域包括ケアシステム実習 社会福祉学概論 チーム医療と医療安全
専	助教	佐野 博一 <平成32年4月> 修士(芸術)
		人体の機能演習 運動学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 臨床推論演習 生活と作業療法学演習 身体機能作業療法学演習 作業療法セミナーⅠ 作業療法セミナーⅡ 住環境整備論 評価学実習

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	関 晴朗
		<平成33年4月> 医学博士
		リハビリテーション医学 神経内科学 老年医学
兼任	講師	関 晴朗
		<平成32年4月> 医学博士
		神経内科学 老年医学
兼任	教授	佐藤 龍昌
		<平成31年4月> 医学博士
		病理学 救急処置法
兼任	教授	齋藤 知行
		<平成32年4月> 医学博士
		整形外科
兼任	教授	窪田 文子
		<平成31年4月> 社会科学博士
		臨床心理学
兼任	教授	久呉 高之
		<平成31年4月> 文学修士
		日本語リテラシー 哲学の世界 倫理学の世界
兼任	教授	中尾 剛
		<平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー
兼任	教授	小池 久恵
		<平成31年4月> 文学修士
		英語A1
		英語A2
		英語B1
		英語B2
		英語C1
英語C2		
兼任	教授	五十嵐 幸一
		<平成31年4月> 体育学修士
		健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	関 晴朗
		<平成33年4月> 医学博士
		リハビリテーション医学 神経内科学 老年医学
兼任	講師	関 晴朗
		<平成32年4月> 医学博士
		神経内科学 老年医学
兼任	教授	佐藤 龍昌
		<平成31年4月> 医学博士
		病理学 救急処置法
兼任	教授	齋藤 知行
		<平成32年4月> 医学博士
		整形外科
兼任	教授	窪田 文子
		<平成31年4月> 社会科学博士
		臨床心理学
兼任	教授	久呉 高之
		<平成31年4月> 文学修士
		日本語リテラシー 哲学の世界 倫理学の世界 芸術の世界
兼任	教授	中尾 剛
		<平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー
兼任	教授	小池 久恵
		<平成31年4月> 文学修士
		英語A1
		英語A2
		英語B1
		英語B2
		英語C1
英語C2		
兼任	教授	五十嵐 幸一
		<平成31年4月> 体育学修士
		健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	関 晴朗
		<平成33年4月> 医学博士
		リハビリテーション医学 神経内科学 老年医学
兼任	講師	関 晴朗
		<平成32年4月> 医学博士
		神経内科学 老年医学
兼任	教授	佐藤 龍昌
		<平成31年4月> 医学博士
		病理学 救急処置法
兼任	教授	齋藤 知行
		<平成32年4月> 医学博士
兼任	教授	窪田 文子
		<平成31年4月> 社会科学博士
		臨床心理学
兼任	教授	久呉 高之
		<平成31年4月> 文学修士
		日本語リテラシー 哲学の世界 倫理学の世界 芸術の世界
兼任	教授	中尾 剛
		<平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー
兼任	教授	小池 久恵
		<平成31年4月> 文学修士
		英語A1
		英語A2
		英語B1
		英語B2
		英語C1
英語C2		
兼任	教授	五十嵐 幸一
		<平成31年4月> 体育学修士
		健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	菅野 昌史 <平成31年4月> 法学修士
		法学入門 災害からの復興
兼任	教授	大嶋 淳俊 <平成31年4月> 修士(学際情報学)
		経済学入門
兼任	教授	菊池 真弓 <平成31年4月> 修士(社会学)
		社会学入門 ジェンダー論
兼任	教授	山本 佳子 <平成31年4月> 博士(文学)
		災害からの復興
兼任	教授	山口 憲二 <平成31年4月> 修士(社会情報学)
		経営学入門
兼任	教授	吉川 真一 <平成31年4月> 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬
兼任	教授	梅村 一之 <平成31年4月> 博士(工学)
		自然科学のあゆみ
兼任	教授	村田 亮 <平成31年4月> 医学博士
		健康と薬
兼任	教授	菊池 雄士 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	菅野 昌史 <平成31年4月> 法学修士
		法学入門 災害からの復興 暮らしのなかの憲法
兼任	教授	菊池 真弓 <平成31年4月> 修士(社会学)
		社会学入門 ジェンダー論
兼任	教授	山本 佳子 <平成31年4月> 博士(文学)
		災害からの復興
兼任	教授	山口 憲二 <平成31年4月> 修士(社会情報学)
		経営学入門 経済学入門
兼任	教授	吉川 真一 <平成31年4月> 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬
兼任	教授	梅村 一之 <平成31年4月> 博士(工学)
		自然科学のあゆみ
兼任	教授	村田 亮 <平成31年4月> 医学博士
		健康と薬
兼任	教授	菊池 雄士 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任の 別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	菅野 昌史 <平成31年4月> 法学修士
		法学入門 災害からの復興 暮らしのなかの憲法
兼任	教授	山口 憲二 <平成31年4月> 修士(社会情報学)
		経営学入門 経済学入門
兼任	教授	吉川 真一 <平成31年4月> 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬
兼任	教授	梅村 一之 <平成31年4月> 博士(工学)
		自然科学のあゆみ
兼任	教授	村田 亮 <平成31年4月> 医学博士
		健康と薬
兼任	教授	菊池 雄士 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奈良 武司 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学
兼任	教授	蝦名 敬一 <平成31年4月> 博士(医学)
		食品の科学
兼任	准教授	能地 克宜 <平成31年4月> 博士(学術)
		日本語リテラシー 文学の世界
兼任	准教授	松本 麻子 <平成31年4月> 博士(文学)
		日本語リテラシー
兼任	准教授	高橋 義考 <平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ
兼任	准教授	西村 康平 <平成31年4月> 博士(学術)
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2 ことばの科学
兼任	准教授	大津 理香 <平成31年4月> Master of Science in Education
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2
兼任	准教授	金 世煥 <平成32年4月> 商学博士
		韓国語1 韓国語2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奈良 武司 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学
兼任	教授	蝦名 敬一 <平成31年4月> 博士(医学)
		食品の科学
兼任	准教授	松本 麻子 <平成31年4月> 博士(文学)
		日本語リテラシー
兼任	准教授	高橋 義考 <平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ
兼任	准教授	西村 康平 <平成31年4月> 博士(学術)
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2 ことばの科学
兼任	准教授	金 世煥 <平成32年4月> 商学博士
		韓国語1 韓国語2 経営学入門

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	奈良 武司 <平成31年4月> 博士(医学)
		生命の科学
兼任	教授	蝦名 敬一 <平成31年4月> 博士(医学)
		食品の科学
兼任	准教授	松本 麻子 <平成31年4月> 博士(文学)
		日本語リテラシー
兼任	准教授	高橋 義考 <平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ
兼任	准教授	西村 康平 <平成31年4月> 博士(学術)
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2 ことばの科学
兼任	准教授	大津 理香 <平成31年4月> Master of Science in Education
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2
兼任	教授	金 世煥 <平成32年4月> 商学博士
		韓国語1 韓国語2 経営学入門

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	高島 翠
		<平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学概論
兼担	准教授	田中 美和
		<平成31年4月> 学士(現代文化)
		経済学入門
兼担	講師	後藤 恭一
		<平成31年4月> 博士(看護学)
		公衆衛生学
兼担	助教	和足 憲明
		<平成31年4月> 博士(法学)
		暮らしのなかの憲法 政治学入門
兼担	助教	永田 隆之
		<平成31年4月> 博士(医学)
		健康と薬
兼担	助教	江藤 忠洋
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		生命の科学
兼担	助教	久保田 耕司
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		生命の科学
兼担	助教	佐藤 陽
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		食品の科学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	高島 翠
		<平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学概論
兼担	講師	後藤 恭一
		<平成31年4月> 博士(看護学)
		公衆衛生学
兼担	准教授	永田 隆之
		<平成31年4月> 博士(医学)
		健康と薬
兼担	准教授	江藤 忠洋
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		生命の科学
兼担	助教	久保田 耕司
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		生命の科学
兼担	准教授	佐藤 陽
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		食品の科学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	高島 翠
		<平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学概論
兼担	講師	後藤 恭一
		<平成31年4月> 博士(看護学)
		公衆衛生学
兼担	准教授	永田 隆之
		<平成31年4月> 博士(医学)
		健康と薬
兼担	准教授	江藤 忠洋
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		生命の科学
兼担	助教	久保田 耕司
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		生命の科学
兼担	准教授	佐藤 陽
		<平成31年4月> 博士(薬学)
		食品の科学
兼担	教授	内田 滯子
		<令和2年4月> 博士(文学)
		日本語リテラシー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 健一 <平成32年4月> 修士(教養)
		中国語 1 中国語 2
兼任	講師	叢 小榕 <平成31年4月> 文学修士
		世界の歴史と文化
兼任	講師	奥村 賢 <平成31年4月> 文学修士
		芸術の世界
兼任	講師	久野 雅司 <平成31年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化
兼任	講師	山田 貴浩 <平成31年4月> 博士(工学)
		統計のしくみ 地球環境の科学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 健一 <平成32年4月> 修士(教養)
		中国語 1 中国語 2
兼任	講師	久野 雅司 <平成31年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化
兼任	講師	山田 貴浩 <平成31年4月> 博士(工学)
		統計のしくみ 地球環境の科学
兼任	講師	帆苅 基生 <平成31年4月> 修士(文学)
		文学の世界
兼任	講師	阿部 慶徳 <平成31年4月> 修士(政治学)
		政治学入門
兼任	講師	野村 光義 <平成31年4月> 修士(学術)
		世界の歴史と文化

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 健一 <平成32年4月> 修士(教養)
		中国語 1 中国語 2
兼任	講師	久野 雅司 <平成31年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化
兼任	講師	山田 貴浩 <平成31年4月> 博士(工学)
		統計のしくみ 地球環境の科学
兼任	講師	帆苅 基生 <平成31年4月> 修士(文学)
		文学の世界
兼任	講師	阿部 慶徳 <平成31年4月> 修士(政治学)
		政治学入門
兼任	講師	野村 光義 <平成31年4月> 修士(学術)
		世界の歴史と文化 日本語リテラシー ことばの科学
		青木 茂治 <令和2年4月> 修士(地域研究)
兼任	講師	英語C1 英語C2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
						兼任	講師	葦沢 龍人 <令和2年4月> 修士(医学) 老年医学
						兼任	講師	氏家 二郎 <令和2年4月> 医学博士 小児外科
						兼任	講師	亀岡 浩一 <令和2年4月> 文学修士 英語A1 英語A2 英語C1 英語C2
						兼任	講師	鯨岡 アリソン <令和2年4月> 修士(言語学) 英語B1 英語B2
						兼任	講師	今野 裕樹 <令和2年4月> 修士(物理工学) 整形外科学
						兼任	講師	勅使河原 智子 <令和2年4月> 文学修士 英語A1 英語A2
						兼任	講師	仲山 勉 <令和2年4月> 修士(物理工学) 整形外科学
						兼任	講師	根本 昌樹 <令和2年4月> 体育学士 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・平成31年3月、井上忠俊助教、就任辞退。
- ・平成31年3月、藤原孝之兼担教授、就任辞退。
- ・平成31年4月、北山淳教授、担当科目を追加（フレッシュャーズセミナー、人体の構造演習、作業科学演習、作業評価学、地域包括ケアシステム実習）。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月、楊著隆哉教授、担当科目を追加（リハビリテーション医学、見学実習）。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月、北山淳教授、担当科目を追加（作業科学演習）。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月、北山淳教授、担当科目を追加（作業評価学）。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月、奥村賢兼任講師、辞任により久島高之兼担教授に変更（芸術の世界）。
- ・平成31年4月、山口憲二兼担教授の担当科目を金世煥兼担教授に変更（経営学入門）。
- ・平成31年4月、大嶋淳俊兼担教授辞任により、山口憲二兼担教授に変更（経済学入門）。
- ・平成31年4月、能地克直兼担教授辞任により、帆刈基生兼任講師に変更（文学の世界）。
- ・平成31年4月、松本麻子兼担教授、教授へ昇格。
- ・平成31年3月、大津理香兼担教授辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・平成31年3月、田中美和兼担教授辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・平成31年4月、和足憲明兼担教授辞任により、菅野昌史兼担教授へ変更（暮らしのなかの憲法）。
- ・平成31年4月、和足憲明兼担教授辞任により、阿部慶徳兼任講師へ変更（政治学入門）。
- ・平成30年4月、永田隆之兼担助教、准教授へ昇格。
- ・平成30年4月、江藤志洋兼担助教、准教授へ昇格。
- ・平成30年4月、佐藤陽兼担助教、准教授へ昇格。
- ・平成31年4月、叢小榕兼任講師辞任により、野村光義兼任講師へ変更（世界の歴史と文化）。

【令和2年度】

- ・令和2年3月、宮本聖也教授、就任辞退。なお、令和2年度のみ「精神医学」の担当を兼任講師に変更予定（令和2年6月より兼任講師4名採用予定）。
- ・令和2年4月、慶徳民夫講師、担当科目を追加（老年期作業療法学演習、地域作業療法学演習）。令和2年1月教員審査済み。
- ・令和2年4月、佐々木充直助教、担当科目を追加（チーム医療と医療安全）。令和2年1月教員審査済み。
- ・令和2年4月、山崎洋次兼担教授辞任により、氏家二郎兼任講師に変更（小児科学）。
- ・令和2年4月、齋藤知行兼担教授就任辞退により、令和2年度のみ、今野裕樹兼任講師、仲山勉兼任講師に変更（整形外科学）。
- ・令和2年4月、「老年医学」の担当科目を追加（草沢龍人兼任講師）。
- ・令和2年4月、松本麻子兼担教授辞任により、内田澤子兼担教授、玉懸元兼担教授、中島清州兼担教授、姜惠彬兼担教授、野村光義兼任講師に変更（日本語リテラシー）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、ティモシークック兼担教授、勅使河原智子兼任講師、亀岡浩一兼任講師に変更（英語A1、英語A2）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、ティモシークック兼担教授、鯨岡アリス兼任講師に変更（英語B1、英語B2）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、ティモシークック兼担教授、青木茂治兼任講師、亀岡浩一兼任講師に変更（英C1、英語C2）。
- ・令和2年4月、高橋義考兼担教授辞任により、裏鐘民兼担講師に変更（コンピュータリテラシー）。
- ・令和2年4月、「健康・スポーツ1」、「健康・スポーツ2」の担当科目を追加（根本昌樹兼任講師）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、野村光義兼任講師に変更（ことばの科学）。
- ・令和2年4月、菊池真弓兼担教授辞任により、令和2年度休講（ジェンダー論）。
- ・令和2年4月、高橋義考兼担教授 退職（自然科学のあゆみ）。
- ・令和2年4月、「生命の科学」の担当科目を追加（片桐拓也兼担教授、丹治貴博兼担教授）。
- ・令和2年4月、「食品の科学」の担当科目を追加（堀一之兼担教授）。
- ・令和2年4月、金世煥兼担教授、教授へ昇格。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	1	2	3	11	0	4	1	2	2	9	0
(5)	(1)	(2)	(2)	(10)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
4	1	2	2	9	0	5	1	2	3	11	0
[△1]	[0]	[0]	[△1]	[△2]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	2 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{11} = \boxed{81.81} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{9} = \boxed{22.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	助教	井上 忠俊	H31.3	必修	フレッシュャーズセミナー	①	H31.3 私事都合のため就任辞退（元）						
				必修	人体の構造演習	①							
				必修	チーム医療と医療安全	①							
				選択	作業科学演習	①							
				必修	作業評価学	①							
				必修	臨床推論演習	①							
				必修	老年期作業療法学演習	①							
				必修	作業療法セミナーⅠ	①							
				必修	作業療法セミナーⅡ	①							
				必修	地域作業療法学演習	①							
2	教授	宮本 聖也	R2.3	必修	精神医学	③	R2.3 私事都合のため就任辞退（2）						
				必修	チーム医療と医療安全	①							
				必修	卒業研究Ⅰ	③							
				必修	卒業研究Ⅱ	③							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）									
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
2	人	必修	15	科目	必修	12	科目	必修	0	科目	必修	3	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	13	科目	計	0	科目	計	3	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合計（F）				後任補充状況の集計（G）									
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)					
2	人	必修	15	科目	必修	12	科目	必修	0	科目	必修	3	科目
		選択	1	科目	選択	1	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	16	科目	計	13	科目	計	0	科目	計	3	科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)\text{合計(D)}+(F)}{(2)-(2)\text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{11} = \boxed{18.18} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計				後任補充状況の集計			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**についてに記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>専任教員の辞任（交代）に関しては、止むを得ない理由と認識しており、教育内容、効果の低下を招かないよう後任の補充を予定している。</p> <p>学生に対しては、シラバス及び期首のオリエンテーション等において周知を図っている。</p>
--

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成30年8月)	1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p>	<p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。</p> <p>中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。</p> <p>中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	1. 入学定員未充足の改善に努めること。	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>(2)</p>

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年8月)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。</p> <p>健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、教員補充について検討していく。中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。</p> <p>中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)</p>	<p>該当なし</p>		

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>1. 1年次後期の配当科目である「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」及び「疾病治療論Ⅰ」について、各科目内容における学修の順序性が重要となるため、教育効果があるような授業展開とすること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>留意事項を踏まえ、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」および「疾病治療論Ⅰ」では、科目内容に変更が生じないよう留意しつつ、他科目との科目内容の重複や進捗状況を鑑みたくて、学修の順序性に齟齬がでないようシラバスの再検討や教育効果があがるよう配慮した授業を展開すべく準備をすすめてきた。</p> <p>(29)</p> <p>時間割上で、「疾病治療論Ⅰ」を学んだ後に、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」を学修できるよう配置している。また、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の授業内容は、疾病等による障害のアセスメントも含んでいるが、主に人間の生活面に視点をあてたアセスメントを学修できるようにしている。昨年学生の到達度、成績、授業アンケートをみても、授業効果が上がっていると考えている。</p> <p>(元)</p>	<p>今年度授業を実施した後、成績や授業アンケートの結果を利用して科目内容の検証を実施し、必要に応じては、科目内容の変更も検討していく。授業内容を変更する際は、事前に設置審査委員会に諮ることとする。</p> <p>(29)</p> <p>履行済</p> <p>(元)</p>
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までには教員を充足すること。</p>	<p>留意事項</p>	<p>教員の補充を必要とされた「地域養生看護学（在宅援助）」については、開講年次（2年後期）までに兼任を補充して対応する予定である。</p> <p>(29)</p> <p>専任教員により「地域養生看護学（在宅援助）」を開講しているが、該当領域の教員が兼任教員の確保に努めている。</p> <p>(元)</p> <p>地域養生看護学（在宅援助）については、専任教員の充足はかなわなかったが、現任教員で科目を担当し、十分な教育を行っているため特に支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>該当領域の教員が兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(29)</p> <p>該当領域の教員が継続して兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(元)</p> <p>今後も、当該領域の教員が継続して教員の確保に努めていく。</p> <p>(2)</p> <p>履行中</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>法人の経営委員会人事検討部会について、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を実施しており、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>法人の経営委員会人事部会において、毎年、教員補充についての検討を行っている。中期的には看護学部完成年度までに、各専門領域における教員組織編制の将来構想について検討していく。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、継続して教員補充について検討していく。また、各専門領域における教員組織編制の将来構想についても併せて検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)</p>	<p>該当なし</p>		

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	指 摘 事 項 (改善)	履 行 状 況	履 行 中	今 後 の の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年3月)	1. 専任教員数が認可時の計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めること。	指摘事項 (改善)	着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会を立ち上げ、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努めている。 (元) 着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募しており、確実に履行するよう努めている。 (2)	履行中	今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 (元) 今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 (2)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	各領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力している。また、教員体制の継続性の担保に関しては、広い範囲で各教員の担当科目を見直し教員配置が出来るように努めている。 (2)	履行中	今後も、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。 (2)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	2. 実習科目や演習科目をはじめとして、教員の指導体制の充実を図り、学生に対するきめ細やかな履修指導を行うとともに、学生に対する履修情報の周知・徹底に努めること。	指摘事項 (改善)	履修の手引を学生に分かりやすく内容を修正し、それを用いて各学年主任が丁寧に履修指導を実施している。また、別途指導が必要な学生には、チューターが個別指導に努めている。 (2)	履行中	実習委員長、領域の実習責任者、担当教員の組織体制を充実させる。また、学生に対してきめ細やかな履修指導ができるよう、履修の手引等による周知を徹底させる。 (2)

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年9月)</p>	<p>1. 健康医療科学部作業療法学科の定員未充足の是正に努めること。</p> <p>遵守事項</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年3月)	該当なし		

生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年3月)	1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。 遵守事項	研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 生命理工学研究科については、現在退職教員の補充、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 (2)	研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、中期的な、教員組織編成の将来構想について検討していく。 (2)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康医療科学部 作業療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SD委員会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">FD・SD委員会細則</p> <p style="text-align: right;">平成19年4月1日 制 定</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この細則は、医療創生大学学則（昭和62年4月1日）第65条第2項及び医療創生大学大学院学則（平成4年4月1日）第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項 (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項 (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項 (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行 (5) 授業評価の実施と結果に関する事項 (6) 職員のSDに関する事項 (7) その他FD・SDに関する事項 <p>(委員会の構成及び任期)</p> <p>第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 各学部を代表する教員 (2) 事務局を代表する職員 (3) その他学長が必要と認めた者 <p>2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。</p> <p>3 委員の任期は、学長が定める。</p> <p>(委員長)</p> <p>第4条 委員会に委員長を置く。</p> <p>2 委員長は、学長が指名する。</p> <p>(委員会の招集)</p> <p>第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。</p> <p>(任務)</p> <p>第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。</p> <p>(雑則)</p> <p>第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。</p> <p>(事務)</p> <p>第8条 委員会の事務は、教務課が当たる。</p> <p>(雑則)</p> <p>第9条 この細則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の意見を聴き、学長が定める。</p> <p>(改廃)</p> <p>第10条 この細則の改廃は、委員会の議を経て、学長が行う。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成19年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成22年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成26年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成27年4月1日から施行する</p> </div>

附 則
この細則は、平成29年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成30年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成31年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

毎月1回実施（ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合がある。）

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業参観制度の実施

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施
委員会において企画立案し実施している。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして実施している。
- ・授業改善アンケートの実施
前期及び後期の授業終了時期に授業内容に関するアンケートを学生に対して実施している。
- ・授業参観制度の実施
教員相互による授業参観制度を導入しており、見直し・検討を行いながら、教育力の向上に努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施
全学FD・SD研修会（令和元年度：1回）
第1回（令和元年9月）：参加率 81.3%
- ・授業改善アンケートの実施
前期：参観者数 124名
後期：参観者数 99名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会については、大学改革の喫緊の課題をテーマとし、ICT活用による授業改善等、普段の授業展開（改善）に貢献している。
- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をとおり、担当教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みづくりを検討しており、授業参観制度を導入し、検証を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了時期に実施（前期：7月～9月）

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員：担当科目の結果を個別にフィードバック、ホームページで公開

学生：ホームページで公開

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
- ・学部完成までは申請時の教育課程を履行しつつ、将来に向けて検証が必要となる。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
- ・平成23年4月 公表
 - ・令和2年10月 公表予定
- b 公表方法
- ・大学ホームページ上に公開中
 - ・大学ホームページ上に公開予定（令和2年10月末を予定）
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・平成30年度に評価機関（大学基準協会）の大学評価（認証評価）を受けた結果、「現時点での判定を保留」となり、令和3年度までに再評価を受けるよう指示があった。
- 本学では、令和2年4月に再評価の申請をした。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和2年度）
- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]
- ≪ aで「有」の場合 ≫
- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]
- ≪ aで公表「無」の場合 ≫
- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人医療創生大学

(2) 大学名

医療創生大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒970-8551

福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1

(〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (平成31年4月)		
学長	(ヤマザキ ヨウジ) 山崎 洋次 (平成25年4月)	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)	学長の交代 令和2年4月1日(2)
学部長	(ゴウ アー チェン) GOH AH CHENG (平成31年4月)		
学科長等	(オギハラ ヒサヨシ) 荻原 久佳 (平成31年4月)	(ミヨシ ケイ) 三好 圭 (令和2年4月)	学科主任の交代 令和2年4月1日(2)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
健康医療科学部 理学療法学科 学士(理学療法)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)	4年	60人	— 年次 — 人	240人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考					
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	60 (—) [—]	60 (—) [—]	1.07倍	—倍					
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	131 (—) [—]	208 (—) [—]	—	—					
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	131 (—) [—]	203 (—) [—]	—	—					
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	129 (—) [—]	95 (—) [—]	—	—					
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	60 (—) [—]	69 (—) [—]	—	—					
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	1.00	1.15							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	60 [—] (—)	— [—] (—)	71 [—] (2)	— [—] (—)	R2年度 1年次 (入学69名+留年2名)
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	57 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次	/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4年次	/		/		/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	60 [—] (—)	— [—] (—)	128 [—] (2)	— [—] (—)	

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
			平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	— 人	— 人	
令和元年度	60 人	1 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(1名)
令和2年度	128 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{—}}{\text{—}} = \boxed{\text{—}} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{60} = \boxed{1.66} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{128} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<健康医療科学部 理学療法学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
全学共通教育科目	フレッシュアーズセミナー	1前	2				1	1	3	
	日本語リテラシー	1前	1							3
	コンピュータリテラシー	1前	1							2
	英語A1	1前	1							3
	英語A2	1後	1							3
	英語B1	1前	1							3
	英語B2	1後	1							3
	英語C1	4前	1							3
	英語C2	4後	1							3
	中国語1	2前		1						1
	中国語2	2後		1						1
	韓国語1	2前		1						1
	韓国語2	2後		1						1
	健康の科学	1前	2							1
	健康・スポーツ1	1前	1							1
	健康・スポーツ2	1後	1							1
	哲学の世界	1前		2						1
	ことばの科学	1前		2						1
	心理学概論	1前		2						1
	世界の歴史と文化	1前		2						1
	倫理学の世界	1後	2							1
	芸術の世界	1後		2						1
	文学の世界	1後		2						1
	日本の歴史と文化	1後		2						1
	法学入門	1前		2						1
	経済学入門	1前		2						2
	社会学入門	1前		2						1
	災害からの復興	1前		2						3
	暮らしのなかの憲法	1後		2						1
	経営学入門	1後		2						1
	ジェンダー論	1後		2						1
	政治学入門	1後		2						1
	自然科学のあゆみ	1前		2						2
	健康と薬	1前		2						3
	統計のしくみ	1前		2						1
	生命の科学	1後		2						4
	食品の科学	1後		2						2
	地球環境の科学	1後		2						1
小計(38科目)	-		16	46	0					
専門教育科目	人体の構造 I	1前	2							1
	人体の構造 II	1後	2							1
	人体の構造演習	2前	1					3		
	人体の機能 I	1前	2							1
	人体の機能 II	1後	2							1
	人体の機能演習	2前	1			1	1	1		
	運動学	1後	2			1				
	運動学演習	2前	1			1		2		
	臨床運動学演習	3前	1			1	1	1		
	心理生理学	2前	1							1
	人間発達学	1後	2				1			
	リハビリテーション医学	1後	2			2				
	病理学	2前	1							1
	薬理学	2後	2							1
	救急処置法	2後	1							1
	神経内科学	2前	2			1				
	整形外科科学	2前	2			1				
	小児科学	2後	2							1
精神医学	2前	2							0	
臨床心理学	2前	2							1	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
全学共通教育科目	フレッシュアーズセミナー	1前	2				1	1	2	
	日本語リテラシー	1前	1							6
	コンピュータリテラシー	1前	1							2
	英語A1	1前	1							3
	英語A2	1後	1							3
	英語B1	1前		1						3
	英語B2	1後		1						3
	英語C1	4前		1						3
	英語C2	4後		1						3
	中国語1	2前		1						1
	中国語2	2後		1						1
	韓国語1	2前		1						1
	韓国語2	2後		1						1
	健康の科学	1前	2							1
	健康・スポーツ1	1前		1						2
	健康・スポーツ2	1後		1						2
	哲学の世界	1前		2						1
	ことばの科学	1前		2						1
	心理学概論	1前		2						1
	世界の歴史と文化	1前		2						1
	倫理学の世界	1後	2							1
	芸術の世界	1後		2						1
	文学の世界	1後		2						1
	日本の歴史と文化	1後		2						1
	法学入門	1前		2						1
	経済学入門	1前		2						1
	社会学入門	1前		2						1
	災害からの復興	1前		2						3
	暮らしのなかの憲法	1後		2						1
	経営学入門	1後		2						1
	ジェンダー論	1後		2						1
	政治学入門	1後		2						1
	自然科学のあゆみ	1前		2						1
	健康と薬	1前		2						3
	統計のしくみ	1前		2						1
	生命の科学	1後		2						5
	食品の科学	1後		2						3
	地球環境の科学	1後		2						1
小計(38科目)	-		12	50	0					
専門教育科目	人体の構造 I	1前	2							1
	人体の構造 II	1後	2							1
	人体の構造演習	2前	1					2		
	人体の機能 I	1前	2							1
	人体の機能 II	1後	2							1
	人体の機能演習	2前	1			1	1	1		
	運動学	1後	2			1				
	運動学演習	2前	1			1		2		
	臨床運動学演習	3前	1			1	1	1		
	心理生理学	2前	1							1
	人間発達学	1後	2				1			
	リハビリテーション医学	1後	2			2				
	病理学	2前	1							1
	薬理学	2後	2							1
	救急処置法	2後	1							1
	神経内科学	2前	2			1				
	整形外科科学	2前	2			0				2
	小児科学	2後	2							1
精神医学	2前	2							0	
臨床心理学	2前	2							1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			1	1	3		
	日本語リテラシー	1前	1							3
	コンピュータリテラシー	1前	1							2
	英語A1	1前	1							3
	英語A2	1後	1							3
	英語B1	1前	1							3
	英語B2	1後	1							3
	英語C1	4前	1							3
	英語C2	4後	1							3
	中国語1	2前		1						1
	中国語2	2後		1						1
	韓国語1	2前		1						1
	韓国語2	2後		1						1
	健康の科学	1前	2							1
	健康・スポーツ1	1前	1							1
	健康・スポーツ2	1後	1							1
	哲学の世界	1前		2						1
	ことばの科学	1前		2						1
	心理学概論	1前		2						1
	世界の歴史と文化	1前		2						1
	倫理学の世界	1後	2							1
	芸術の世界	1後		2						1
	文学の世界	1後		2						1
	日本の歴史と文化	1後		2						1
	法学入門	1前		2						1
	経済学入門	1前		2						1
	社会学入門	1前		2						1
	災害からの復興	1前		2						3
	暮らしのなかの憲法	1後		2						1
	経営学入門	1後		2						1
	ジェンダー論	1後		2						1
	政治学入門	1後		2						1
	自然科学のあゆみ	1前		2						3
	健康と薬	1前		2						3
	統計のしくみ	1前		2						1
	生命の科学	1後		2						5
	食品の科学	1後		2						2
	地球環境の科学	1後		2						1
小計(38科目)	-		16	46	0					
専門教育科目	人体の構造Ⅰ	1前	2							1
	人体の構造Ⅱ	1後	2							1
	人体の構造演習	2前	1					3		
	人体の機能Ⅰ	1前	2							1
	人体の機能Ⅱ	1後	2							1
	人体の機能演習	2前	1			1	1	1		
	運動学	1後	2		1					
	運動学演習	2前	1			1		2		
	臨床運動学演習	3前	1			1	1	1		
	心理生理学	2前	1							1
	人間発達学	1後	2				1			
	リハビリテーション医学	1後	2			2				
	病理学	2前	1							1
	薬理学	2後	2							1
	救急処置法	2後	1							1
	神経内科学	2前	2			1				
	整形外科学	2前	2			1				
	小児科学	2後	2							1
精神医学	2前	2							1	
臨床心理学	2前	2							1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	老年医学	2後	2			1						
	社会福祉学概論	1後		1								1
	公衆衛生学	2後	2									1
	チーム医療と医療安全	3前	1			1		2				
	リハビリテーション概論	1前	1			1	1					
	理学療法概論	1前	1			1						
	理学療法教育と管理	4前	1			0		1				
	理学療法基礎理論	1後	1			1						
	リスク管理論	3後		1				1				
	健康医療科学研究方法論1	1後	1			1						
	健康医療科学研究方法論2	2前	1			1						
	リハビリテーション工学演習	2後	1				1	1				
	卒業研究 I	3通	2			2	2	1				
	卒業研究 II	4通	2			2	2	1				
	理学療法評価学	1後	1				1					
	理学療法評価学演習 I	1後	1							2		
	理学療法評価学演習 II	2前	1				1	0				
	理学療法評価学演習 III	2前	1					0		2		
	理学療法評価学演習 IV	2後	1					1	1			
	理学療法評価学演習 V	3前	1				3	1	1			
	生体応用計測論	2前		1		0	1					
	生体応用計測演習	4前		1			2	1				
	臨床推論演習	3前	1			1	1	3				
	運動療法学総論	2前	1			1	1					
	日常生活活動分析学	2後	1				1					
	日常生活活動分析学演習	2後	1				1			1		
	運動器理学療法学	2後	2				1					
	運動器理学療法学演習	3前	1				1			1		
	神経機能理学療法学	2後	1				1	0				
	神経機能理学療法学演習 I	3前	1				1	0		1		
	神経機能理学療法学演習 II	3後	1				1	1				
	内部障害理学療法学	2後	1					1				
	内部障害理学療法学演習 I	3前	1					1		1		
	内部障害理学療法学演習 II	3後	1					1		1		
	発達と理学療法学	2後	1					1				
	発達と理学療法学演習	3前	1					1				
	老年期理学療法学	3前	2					0				
	物理療法学	2前	1			1						
	臨床物理療法学演習	2前	1			1	1					
	義肢装具学演習	2前	1				1					
	徒手理学療法学	3後	1			1						
	スポーツ理学療法学	3後		1			1			1		
	高次脳機能治療学	3前		1				0				
	理学療法セミナー I	4前	1			0	1	1	3			
	理学療法セミナー II	4後	2			0	1	1	3			
	地域保健と理学療法	2前	1				1					
	生活環境と理学療法	2後	1				1					
	地域理学療法学	3前	2				1	0				
	地域理学療法学演習	3前	1					0		1		
	地域ボランティア活動論	1後	1				1	1				
	地域理学療法マネジメント論	4前		1				1				
	見学実習	1後	1				1			2		
	地域包括ケアシステム実習	2後	1					2		1		
	評価学実習	3通	3				1	1	1			
	臨床実習 I	3後	8				1	1	1			
	臨床実習 II	4前	8				2	1				
	小計(76科目)	-	102	11								
	合計(114科目)	-	118	57								
	卒業要件及び履修方法											
	<p>必修科目118単位、全学共通教育科目の選択科目から4単位、専門教育科目の選択科目から2単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))</p>											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「**連携実務演習**」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ①-②授業科目表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・ 辞任の理由により、「経済学入門」の兼任・兼任の配置を「2」から「1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「自然科学のあゆみ」の兼任・兼任の配置を「2」から「3」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「生命の科学」の兼任・兼任の配置を「4」から「5」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「リハビリテーション概論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「リハビリテーション概論」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「理学療法の教育と管理」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「理学療法評価学演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「理学療法評価学演習Ⅲ」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「生体応用計測論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「臨床推論演習」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「臨床推論演習」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「神経機能理学療法学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「神経機能理学療法学」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「神経機能理学療法演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「神経機能理学療法演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「老年期理学療法学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「高次脳機能治療学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「理学療法セミナーⅠ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「理学療法セミナーⅡ」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「地域理学療法学」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「地域理学療法学」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「地域理学療法演習」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。

【令和2年度】

- ・ 辞任の理由により、「フレッシュアーズセミナー」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「日本語リテラシー」の兼任・兼任の配置を「3」から「6」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語B1」の単位数を「必修」から「選択」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語B2」の単位数を「必修」から「選択」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語C1」の単位数を「必修」から「選択」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「英語C2」の単位数を「必修」から「選択」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「健康・スポーツ1」の単位数を「必修」から「選択」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「健康・スポーツ2」の単位数を「必修」から「選択」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康・スポーツ1」の兼任・兼任の配置を「1」から「2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康・スポーツ2」の兼任・兼任の配置を「1」から「2」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「自然科学のあゆみ」の専任教員等の配置を「兼任・兼任3」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 教育内容充実の理由により、「生命の科学」の兼任・兼任の配置を「3」から「5」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「食品の科学」の単位数を「選択」から「必修」に変更。
- ・ 教育内容充実の理由により、「食品の科学」の兼任・兼任の配置を「2」から「3」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「人体の構造演習」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「整形外科学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」、「兼任・兼任0」から「兼任・兼任2」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「精神医学」の兼任・兼任の配置を「1」から「0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「老年医学」の兼任・兼任の配置を「0」から「1」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「社会福祉学概論」の単位数を「選択」から「必修」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「チーム医療と医療安全」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「理学療法の教育と管理」の単位数を「選択」から「必修」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康医療科学研究方法論2」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「卒業研究Ⅰ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「卒業研究Ⅱ」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「理学療法評価学演習Ⅲ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「理学療法評価学演習Ⅳ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「理学療法評価学演習Ⅴ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「生体応用計測論」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「内部障害理学療法学演習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「内部障害理学療法学演習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「老年期理学療法学」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。

- ・ 指定規則の改正に伴う教育課程変更の理由により、「高次脳機能治療学」の単位数を「選択」から「必修」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「高次脳機能治療学」の専任教員等の配置を「助教0」から「助教1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「理学療法セミナーⅠ」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「理学療法セミナーⅡ」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教2」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「見学実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「臨床実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
78 科目	36 科目	0 科目	114 科目	76 科目 [Δ 2]	38 科目 [2]	0 科目 [0]	114 科目 [0]	令和2年 指定規則の改正に伴う教育課程の 変更

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：Δ1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{114} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	123,105.00㎡	0㎡	0㎡	123,105.00㎡			
	運動場用地	23,800.00㎡	0㎡	0㎡	23,800.00㎡			
	小 計	146,905.00㎡	0㎡	0㎡	146,905.00㎡			
	そ の 他	309,448.86㎡	0㎡	0㎡	309,448.86㎡			
	合 計	456,353.86㎡	0㎡	0㎡	456,353.86㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 令和2年4月 心理学部設置に伴う用途変更のため(2)			
	44,822.15㎡ 44,165.15㎡ (44,822.15㎡) -(44,165.15㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	44,822.15㎡ 44,165.15㎡ (44,822.15㎡) -(44,165.15㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 令和2年4月 心理学部及び生命理工学研 究科設置に伴う用途変更の ため(2)		
	41 室 40 室	32 室	124 室 121 室	3 室 (補助職員 1人)	1 室 (補助職員 1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	健康医療科学部 理学療法学科			13 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	令和2年4月 図書・学術冊子設置(2)
	健康医療科学部 理学療法学科	870 [80] (650 [60]) -(430 [40])	17 [7] (17 [7]) -(13 [3])	6 [6] (6 [6]) -(2 [2])	20 (20)	283 (283)	46 (46)	
	計	870 [80] (650 [60]) -(430 [40])	17 [7] (17 [7]) -(13 [3])	6 [6] (6 [6]) -(2 [2])	20 (20)	283 (283)	46 (46)	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体 平成31年4月 用途変更のため(元)			
	5,052.81㎡ 5,109.81㎡	448 438	288,000					
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	4,513.16㎡	野球場1面、テニスコート10面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	100千円	100千円	図書購入費	10,402千円	9,761千円	
	共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	273,258千円	- 千円	- 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,950千円	1,650千円	1,650千円	1,650千円	- 千円	- 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金 等						
<p>(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。 ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。 ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。 なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。 ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。 								

4. 既設大学等の状況

大学の名称	医療創生大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(学部)											
科学技術学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
科学技術学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	—	—	平成22年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止 (科学技術学科)
人文学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
表現文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	—	平成17年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止
心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	—	—	平成13年度	同上	(表現文化学科・ 心理学科)
薬学部	6	90	—	540	—	0.83	0.54	—	平成19年度	—	
薬学科	6	90	—	540	学士 (薬学)	0.83	0.54	—	平成19年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成23年4月より 入学定員変更 (薬学科150→90)
教養学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域教養学科	4	—	—	—	学士 (教養)	—	—	—	平成27年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成31年4月より 学生募集停止
看護学部	4	80	—	320	—	1.06	0.95	—	平成29年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.06	0.95	—	平成29年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
健康医療科学部	4	100	—	400	—	0.93	1.07	—	平成31年度	—	
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.72	0.95	—	平成31年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.07	1.15	—	平成31年度	同上	
心理学部	4	60	—	240	—	0.56	0.56	—	令和2年度	—	
臨床心理学科	4	60	—	240	学士 (心理学)	0.56	0.56	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
大学全体	—	330	—	1,500	—	—	—	—	—	—	

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
(大学院)											
理工学研究科											
(修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理学専攻	2	—	—	—	修士 (理学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (物質理学専攻・ 物理工学専攻)
物理工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	—	平成4年度	同上	
(博士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理工学専攻	3	—	—	—	博士 (理工学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
生命理工学研究科											
(修士課程)	2	5	—	10	—	0.60	0.60	—	令和2年度	—	
生命理工学専攻	2	5	—	10	修士 (生命理工学)	0.60	0.60	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
(博士後期課程)	3	2	—	6	—	1.50	1.50	—	令和2年度	—	
生命理工学専攻	3	2	—	6	博士 (生命理工学)	1.50	1.50	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
人文学研究科											
(修士課程)	2	10	—	20	—	0.15	0.15	—	平成4年度	—	
日本文学専攻	—	—	—	—	修士 (日本文学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (日本文学専攻・ 英米文学専攻・ 社会学専攻)
英米文学専攻	—	—	—	—	修士 (英米文学)	—	—	—	平成7年度	同上	
社会学専攻	—	—	—	—	修士 (社会学)	—	—	—	平成4年度	同上	
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.15	0.15	—	平成17年度	同上	
(博士課程)	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日本文学専攻	3	—	—	—	博士 (日本文学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
大学院全体	—	17	—	36	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

＜健康医療科学部 理学療法学科＞

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	藤原 孝之 ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		リハビリテーション医学 リハビリテーション概論 理学療法概論 理学療法の教育と管理 健康医療科学研究方法論2 生体応用計測論 運動療法学総論 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ
専	教授	ゴウアーチェン GOH AH CHENG ＜平成31年4月＞ Doctor of Philosophy
		運動学 理学療法学基礎理論 健康医療科学研究方法論1 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 運動器理学療法 物理療法学 臨床物理療法学演習 徒手理学療法学
専	教授	齋藤 知行 ＜平成32年4月＞ 医学博士
		整形外科 チーム医療と医療安全※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	関 晴朗 ＜平成33年4月＞ 医学博士
		リハビリテーション医学 神経内科学 老年医学 リハビリテーション概論

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	ゴウアーチェン GOH AH CHENG ＜平成31年4月＞ Doctor of Philosophy
		運動学 理学療法学基礎理論 健康医療科学研究方法論1 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 運動器理学療法 物理療法学 臨床物理療法学演習 徒手理学療法学 理学療法学概論 健康医療科学研究方法論2 臨床推論演習 運動療法学総論
専	教授	齋藤 知行 ＜平成32年4月＞ 医学博士
		整形外科 チーム医療と医療安全※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	関 晴朗 ＜平成33年4月＞ 医学博士
		リハビリテーション医学 神経内科学 老年医学 リハビリテーション概論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	ゴウアーチェン GOH AH CHENG ＜平成31年4月＞ Doctor of Philosophy
		運動学 理学療法学基礎理論 健康医療科学研究方法論1 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 運動器理学療法 物理療法学 臨床物理療法学演習 徒手理学療法学 理学療法学概論 健康医療科学研究方法論2 臨床推論演習 運動療法学総論
専	教授	関 晴朗 ＜平成33年4月＞ 医学博士
		リハビリテーション医学 神経内科学 老年医学 リハビリテーション概論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	准教授	三好 圭 <平成31年4月> 博士(学術)
		卒業研究 I 卒業研究 II 理学療法評価学演習 V 臨床推論演習 日常生活活動分析学 日常生活活動分析学演習 運動器理学療法学演習 義肢装具学演習 地域保健と理学療法 地域包括ケアシステム実習 臨床実習 II
専	准教授	小沼 亮 <平成33年4月> 修士(工学)
		臨床運動学演習 理学療法評価学演習 V 生体応用計測演習 神経機能理学療法学演習 II 理学療法セミナー I 理学療法セミナー II 臨床実習 II
専	准教授	荻原 久佳 <平成31年4月> 博士(学術)
		理学療法評価学演習 II 理学療法評価学演習 V 臨床物理療法学演習 生活環境と理学療法 地域ボランティア活動論 見学実習 地域包括ケアシステム実習 評価学実習 臨床実習 I

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	准教授	三好 圭 <平成31年4月> 博士(学術)
		卒業研究 I 卒業研究 II 理学療法評価学演習 V 臨床推論演習 日常生活活動分析学 日常生活活動分析学演習 運動器理学療法学演習 義肢装具学演習 地域保健と理学療法 地域包括ケアシステム実習 臨床実習 II
専	准教授	小沼 亮 <平成33年4月> 修士(工学)
		臨床運動学演習 理学療法評価学演習 V 生体応用計測演習 神経機能理学療法学演習 II 理学療法セミナー I 理学療法セミナー II 臨床実習 II
専	准教授	荻原 久佳 <平成31年4月> 博士(学術)
		理学療法評価学演習 II 理学療法評価学演習 V 臨床物理療法学演習 生活環境と理学療法 地域ボランティア活動論 見学実習 地域包括ケアシステム実習 評価学実習 臨床実習 I リハビリテーション概論 神経機能理学療法学 神経機能理学療法学演習 I 地域理学療法学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
専	准教授	三好 圭 <平成31年4月> 博士(学術)
		卒業研究 I 卒業研究 II 理学療法評価学演習 V 臨床推論演習 日常生活活動分析学 日常生活活動分析学演習 運動器理学療法学演習 義肢装具学演習 地域保健と理学療法 地域包括ケアシステム実習 臨床実習 II
専	准教授	小沼 亮 <令和3年4月> 修士(工学)
		臨床運動学演習 理学療法評価学演習 V 生体応用計測演習 神経機能理学療法学演習 II 理学療法セミナー I 理学療法セミナー II 臨床実習 II
専	准教授	荻原 久佳 <平成31年4月> 博士(学術)
		理学療法評価学演習 II 理学療法評価学演習 V 臨床物理療法学演習 生活環境と理学療法 地域ボランティア活動論 見学実習 地域包括ケアシステム実習 評価学実習 臨床実習 I リハビリテーション概論 神経機能理学療法学 神経機能理学療法学演習 I 地域理学療法学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	古川 勉寛 ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の機能演習 運動学演習 リハビリテーション工学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 理学療法評価学 生体応用計測論 生体応用計測演習 運動療法学総論 スポーツ理学療法学
専	講師	成田 正行 ＜平成33年4月＞ 修士（工学）
		臨床運動学演習 チーム医療と医療安全 理学療法の教育と管理 生体応用計測演習 臨床推論演習 神経機能理学療法学演習Ⅱ 地域理学療法マネジメント論 評価学実習 臨床実習Ⅱ
専	講師	神子嶋 誠 ＜平成32年4月＞ 修士（工学）
		人間発達学 チーム医療と医療安全 理学療法評価学演習Ⅴ 臨床推論演習 発達と理学療法学 発達と理学療法学演習 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 臨床実習Ⅰ
専	講師	濱岡 克伺 ＜平成31年4月＞ 修士（学術）
		理学療法評価学演習Ⅱ 理学療法評価学演習Ⅲ 臨床推論演習 神経機能理学療法学 神経機能理学療法学演習Ⅰ 老年期理学療法学 高次脳機能治療学 地域理学療法学 地域理学療法学演習 臨床実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	古川 勉寛 ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の機能演習 運動学演習 リハビリテーション工学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 理学療法評価学 生体応用計測論 生体応用計測演習 運動療法学総論 スポーツ理学療法学
専	講師	成田 正行 ＜平成33年4月＞ 修士（工学）
		臨床運動学演習 チーム医療と医療安全 理学療法の教育と管理 生体応用計測演習 臨床推論演習 神経機能理学療法学演習Ⅱ 地域理学療法マネジメント論 評価学実習 臨床実習Ⅱ
専	講師	神子嶋 誠 ＜平成32年4月＞ 修士（工学）
		人間発達学 チーム医療と医療安全 理学療法評価学演習Ⅴ 臨床推論演習 発達と理学療法学 発達と理学療法学演習 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 臨床実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	古川 勉寛 ＜平成31年4月＞ 博士（工学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の機能演習 運動学演習 リハビリテーション工学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 理学療法評価学 生体応用計測論 生体応用計測演習 運動療法学総論 スポーツ理学療法学
専	講師	成田 正行 ＜令和3年4月＞ 修士（工学）
		臨床運動学演習 チーム医療と医療安全 理学療法の教育と管理 生体応用計測演習 臨床推論演習 神経機能理学療法学演習Ⅱ 地域理学療法マネジメント論 評価学実習 臨床実習Ⅱ
専	講師	神子嶋 誠 ＜令和2年4月＞ 修士（工学）
		人間発達学 チーム医療と医療安全 理学療法評価学演習Ⅴ 臨床推論演習 発達と理学療法学 発達と理学療法学演習 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 臨床実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	小林 大介 ＜平成31年4月＞ 博士（障害科学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の機能演習 リスク管理論 リハビリテーション工学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 理学療法評価学演習Ⅳ 臨床推論演習 内部障害理学療法学 内部障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅱ 地域ボランティア活動論
専	助教	齋門 良紀 ＜平成31年4月＞ 修士（保健学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の構造演習 運動学演習 理学療法評価学演習Ⅰ 理学療法評価学演習Ⅲ 運動器理学療法学演習 スポーツ理学療法学 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 地域理学療法学演習
専	助教	佐藤 惇史 ＜平成31年4月＞ 学士（理学療法学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の構造演習 人体の機能演習 運動学演習 臨床運動学演習 理学療法評価学演習Ⅰ 日常生活活動分析学演習 神経機能理学療法学演習Ⅰ 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 見学実習 地域包括ケアシステム実習 評価学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	小林 大介 ＜平成31年4月＞ 博士（障害科学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の機能演習 リスク管理論 リハビリテーション工学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 理学療法評価学演習Ⅳ 臨床推論演習 内部障害理学療法学 内部障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅱ 地域ボランティア活動論
専	助教	齋門 良紀 ＜平成31年4月＞ 修士（保健学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の構造演習 運動学演習 理学療法評価学演習Ⅰ 理学療法評価学演習Ⅲ 運動器理学療法学演習 スポーツ理学療法学 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 地域理学療法学演習
専	助教	佐藤 惇史 ＜平成31年4月＞ 学士（理学療法学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の構造演習 人体の機能演習 運動学演習 臨床運動学演習 理学療法評価学演習Ⅰ 日常生活活動分析学演習 神経機能理学療法学演習Ⅰ 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 見学実習 地域包括ケアシステム実習 評価学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	小林 大介 ＜平成31年4月＞ 博士（障害科学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の機能演習 リスク管理論 リハビリテーション工学演習 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 理学療法評価学演習Ⅳ 臨床推論演習 内部障害理学療法学 内部障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅱ 地域ボランティア活動論
専	助教	齋門 良紀 ＜平成31年4月＞ 博士（保健学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の構造演習 運動学演習 理学療法評価学演習Ⅰ 理学療法評価学演習Ⅲ 運動器理学療法学演習 スポーツ理学療法学 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 地域理学療法学演習 健康医療科学研究方法論2 生体応用計測論
専	助教	佐藤 惇史 ＜平成31年4月＞ 学士（理学療法学）
		フレッシュアーズセミナー 人体の構造演習 人体の機能演習 運動学演習 臨床運動学演習 理学療法評価学演習Ⅰ 日常生活活動分析学演習 神経機能理学療法学演習Ⅰ 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 見学実習 地域包括ケアシステム実習 評価学実習 高次脳機能治療学 老年期理学療法学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	福士 勇人 ＜平成31年4月＞ 博士（理工学）
		フレッシュャーズセミナー 人体の構造演習 理学療法評価学演習Ⅲ 理学療法評価学演習Ⅳ 理学療法評価学演習Ⅴ 内部障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅱ 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 見学実習 臨床実習Ⅰ
		山崎 洋次 ＜平成32年4月＞ 医学博士
		小児科学
		楊箒 隆哉 ＜平成31年4月＞ 医学博士
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 心理生理学
		平藤 雅彦 ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 薬理学
		佐藤 龍昌 ＜平成31年4月＞ 医学博士
		病理学 救急処置法
兼担	教授	宮本 聖也 ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		精神医学
兼担	教授	窪田 文子 ＜平成31年4月＞ 社会科学博士
		臨床心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	福士 勇人 ＜平成31年4月＞ 博士（理工学）
		フレッシュャーズセミナー 人体の構造演習 理学療法評価学演習Ⅲ 理学療法評価学演習Ⅳ 理学療法評価学演習Ⅴ 内部障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅱ 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 見学実習 臨床実習Ⅰ
		山崎 洋次 ＜平成32年4月＞ 医学博士
		小児科学
		楊箒 隆哉 ＜平成31年4月＞ 医学博士
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 心理生理学 リハビリテーション医学
		平藤 雅彦 ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 薬理学
		佐藤 龍昌 ＜平成31年4月＞ 医学博士
		病理学 救急処置法
兼担	教授	宮本 聖也 ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		精神医学
兼担	教授	窪田 文子 ＜平成31年4月＞ 社会科学博士
		臨床心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	助教	福士 勇人 ＜平成31年4月＞ 博士（理工学）
		フレッシュャーズセミナー 人体の構造演習 理学療法評価学演習Ⅲ 理学療法評価学演習Ⅳ 理学療法評価学演習Ⅴ 内部障害理学療法学演習Ⅰ 内部障害理学療法学演習Ⅱ 理学療法セミナーⅠ 理学療法セミナーⅡ 見学実習 臨床実習Ⅰ
		山崎 洋次 ＜平成32年4月＞ 医学博士
		小児科学
		楊箒 隆哉 ＜平成31年4月＞ 医学博士
		人体の構造Ⅰ 人体の構造Ⅱ 心理生理学 リハビリテーション医学
		平藤 雅彦 ＜平成31年4月＞ 薬学博士
		人体の機能Ⅰ 人体の機能Ⅱ 薬理学
		佐藤 龍昌 ＜平成31年4月＞ 医学博士
		病理学 救急処置法
兼担	教授	宮本 聖也 ＜平成32年4月＞ 博士（医学）
		精神医学
兼担	教授	窪田 文子 ＜平成31年4月＞ 社会科学博士
		臨床心理学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	久呉 高之 〈平成31年4月〉 文学修士
		日本語リテラシー 哲学の世界 倫理学の世界
兼担	教授	中尾 剛 〈平成31年4月〉 博士(工学)
		コンピュータリテラシー
兼担	教授	小池 久恵 〈平成31年4月〉 文学修士
		英語 A 1
		英語 A 2
		英語 B 1
		英語 B 2
		英語 C 1
		英語 C 2
兼担	教授	五十嵐 幸一 〈平成31年4月〉 体育学修士
		健康の科学 健康・スポーツ 1 健康・スポーツ 2
		菅野 昌史 〈平成31年4月〉 法学修士
兼担	教授	法学入門 災害からの復興
		大嶋 淳俊 〈平成31年4月〉 修士(学際情報学)
兼担	教授	経済学入門
		菊池 真弓 〈平成31年4月〉 修士(社会学)
兼担	教授	社会学入門 ジェンダー論
		山本 佳子 〈平成31年4月〉 博士(文学)
兼担	教授	災害からの復興

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	久呉 高之 〈平成31年4月〉 文学修士
		日本語リテラシー 哲学の世界 倫理学の世界 芸術の世界
兼担	教授	中尾 剛 〈平成31年4月〉 博士(工学)
		コンピュータリテラシー
兼担	教授	小池 久恵 〈平成31年4月〉 文学修士
		英語 A 1
		英語 A 2
		英語 B 1
		英語 B 2
		英語 C 1
		英語 C 2
兼担	教授	五十嵐 幸一 〈平成31年4月〉 体育学修士
		健康の科学 健康・スポーツ 1 健康・スポーツ 2
		菅野 昌史 〈平成31年4月〉 法学修士
兼担	教授	法学入門 災害からの復興 暮らしのなかの憲法
		大嶋 淳俊 〈平成31年4月〉 修士(学際情報学)
兼担	教授	経済学入門
		菊池 真弓 〈平成31年4月〉 修士(社会学)
兼担	教授	社会学入門 ジェンダー論
		山本 佳子 〈平成31年4月〉 博士(文学)
兼担	教授	災害からの復興

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	久呉 高之 〈平成31年4月〉 文学修士
		日本語リテラシー 哲学の世界 倫理学の世界 芸術の世界
兼担	教授	中尾 剛 〈平成31年4月〉 博士(工学)
		コンピュータリテラシー
兼担	教授	小池 久恵 〈平成31年4月〉 文学修士
		英語 A 1
		英語 A 2
		英語 B 1
		英語 B 2
		英語 C 1
		英語 C 2
兼担	教授	五十嵐 幸一 〈平成31年4月〉 体育学修士
		健康の科学 健康・スポーツ 1 健康・スポーツ 2
		菅野 昌史 〈平成31年4月〉 法学修士
兼担	教授	法学入門 災害からの復興 暮らしのなかの憲法
		大嶋 淳俊 〈平成31年4月〉 修士(学際情報学)
兼担	教授	経済学入門
		菊池 真弓 〈平成31年4月〉 修士(社会学)
兼担	教授	社会学入門 ジェンダー論
		山本 佳子 〈平成31年4月〉 博士(文学)
兼担	教授	災害からの復興

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	山口 憲二 〈平成31年4月〉 修士(社会情報学)
		経営学入門
兼担	教授	吉川 真一 〈平成31年4月〉 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬
兼担	教授	梅村 一之 〈平成31年4月〉 博士(工学)
		自然科学のあゆみ
兼担	教授	村田 亮 〈平成31年4月〉 医学博士
		健康と薬
兼担	教授	菊池 雄士 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		生命の科学
兼担	教授	奈良 武司 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		生命の科学
兼担	教授	蝦名 敬一 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		食品の科学
兼担	准教授	能地 克宜 〈平成31年4月〉 博士(学術)
		日本語リテラシー 文学の世界
兼担	准教授	松本 麻子 〈平成31年4月〉 博士(文学)
		日本語リテラシー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	山口 憲二 〈平成31年4月〉 修士(社会情報学)
		経営学入門 経済学入門
兼担	教授	吉川 真一 〈平成31年4月〉 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬
兼担	教授	梅村 一之 〈平成31年4月〉 博士(工学)
		自然科学のあゆみ
兼担	教授	村田 亮 〈平成31年4月〉 医学博士
		健康と薬
兼担	教授	菊池 雄士 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		生命の科学
兼担	教授	奈良 武司 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		生命の科学
兼担	教授	蝦名 敬一 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		食品の科学
兼担	教授	松本 麻子 〈平成31年4月〉 博士(文学)
		日本語リテラシー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	山口 憲二 〈平成31年4月〉 修士(社会情報学)
		経営学入門 経済学入門
兼担	教授	吉川 真一 〈平成31年4月〉 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬
兼担	教授	梅村 一之 〈平成31年4月〉 博士(工学)
		自然科学のあゆみ
兼担	教授	村田 亮 〈平成31年4月〉 医学博士
		健康と薬
兼担	教授	菊池 雄士 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		生命の科学
兼担	教授	奈良 武司 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		生命の科学
兼担	教授	蝦名 敬一 〈平成31年4月〉 博士(医学)
		食品の科学
兼担	准教授	能地 克宜 〈平成31年4月〉 博士(学術)
		日本語リテラシー 文学の世界
兼担	准教授	松本 麻子 〈平成31年4月〉 博士(文学)
		日本語リテラシー

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	高橋 義考
		<平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ
兼担	准教授	西村 康平
		<平成31年4月> 博士(学術)
		英語 A 1 英語 A 2 英語 B 1 英語 B 2 英語 C 1 英語 C 2 ことばの科学
兼担	准教授	大津 理香
		<平成31年4月> Master of Science in Education
		英語 A 1 英語 A 2 英語 B 1 英語 B 2 英語 C 1 英語 C 2
兼担	准教授	金 世煥
		<平成32年4月> 商学博士
		韓国語 1 韓国語 2
兼担	准教授	高島 翠
		<平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学概論
兼担	准教授	田中 美和
		<平成31年4月> 学士(現代文化)
		経済学入門
兼担	講師	後藤 恭一
		<平成31年4月> 博士(看護学)
		公衆衛生学
兼担	助教	佐々木 充直
		<平成31年4月> 修士(地域政策)
		社会福祉学概論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	准教授	高橋 義考
		<平成31年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ
兼担	准教授	西村 康平
		<平成31年4月> 博士(学術)
		英語 A 1 英語 A 2 英語 B 1 英語 B 2 英語 C 1 英語 C 2 ことばの科学
兼担	准教授	金 世煥
		<平成32年4月> 商学博士
		韓国語 1 韓国語 2 経営学入門
兼担	准教授	高島 翠
		<平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学概論
兼担	講師	後藤 恭一
		<平成31年4月> 博士(看護学)
		公衆衛生学
兼担	助教	佐々木 充直
		<平成31年4月> 修士(地域政策)
		社会福祉学概論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	金 世煥
		<平成32年4月> 商学博士
		韓国語 1 韓国語 2 経営学入門
兼担	准教授	高島 翠
		<平成31年4月> 博士(心理学)
		心理学概論
兼担	講師	後藤 恭一
		<平成31年4月> 博士(看護学)
		公衆衛生学
兼担	助教	佐々木 充直
		<平成31年4月> 修士(地域政策)
		社会福祉学概論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	助教	和足 憲明 <平成31年4月> 博士（法学）
		暮らしのなかの憲法 政治学入門
兼任	助教	永田 隆之 <平成31年4月> 博士（医学）
		健康と薬
兼任	助教	江藤 忠洋 <平成31年4月> 博士（薬学）
		生命の科学
兼任	助教	久保田 耕司 <平成31年4月> 博士（薬学）
		生命の科学
兼任	助教	佐藤 陽 <平成31年4月> 博士（薬学）
		食品の科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	准教授	永田 隆之 <平成31年4月> 博士（医学）
		健康と薬
兼任	准教授	江藤 忠洋 <平成31年4月> 博士（薬学）
		生命の科学
兼任	助教	久保田 耕司 <平成31年4月> 博士（薬学）
		生命の科学
兼任	准教授	佐藤 陽 <平成31年4月> 博士（薬学）
		食品の科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	准教授	永田 隆之 <平成31年4月> 博士（医学）
		健康と薬
兼任	准教授	江藤 忠洋 <平成31年4月> 博士（薬学）
		生命の科学
兼任	准教授	佐藤 陽 <平成31年4月> 博士（薬学）
		食品の科学
兼任	教授	内田 滯子 <令和2年4月> 博士（文学）
		日本語リテラシー
兼任	教授	片桐 拓也 <令和2年4月> 薬学博士
		生命の科学
兼任	教授	玉懸 元 <令和2年4月> 博士（文学）
		日本語リテラシー

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	講師	関 晴朗 <平成32年4月> 医学博士 神経内科学 老年医学
兼任	講師	神子嶋 誠 <平成31年4月> 修士(工学) 人間発達学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	講師	関 晴朗 <平成32年4月> 医学博士 神経内科学 老年医学
兼任	講師	神子嶋 誠 <平成31年4月> 修士(工学) 人間発達学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
		ティモシー クック <令和2年4月> Ph. D. in Communication Studies
兼任	教授	英語A1 英語A2 英語C1 英語C2 英語B1 英語B2
		中島 清州 <令和2年4月> 教育学士
兼任	教授	日本語リテラシー
		堀 一之 <令和2年4月> 博士(薬学)
兼任	教授	食品の科学
		姜 惠彬 <令和2年4月> 博士(文学)
兼任	准教授	日本語リテラシー
		丹治 貴博 <令和2年4月> 博士(薬学)
兼任	准教授	生命の科学
		寝 鍾民 <令和2年4月> 商学修士
兼任	講師	コンピュータリテラシー
		関 晴朗 <令和2年4月> 医学博士
兼任	講師	神経内科学 老年医学

専任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 健一 <平成32年4月> 修士(教養)
		中国語 1 中国語 2
兼任	講師	叢 小裕 <平成31年4月> 文学修士
		世界の歴史と文化
兼任	講師	奥村 賢 <平成31年4月> 文学修士
		芸術の世界
兼任	講師	久野 雅司 <平成31年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化
兼任	講師	山田 貴浩 <平成31年4月> 博士(工学)
		統計のしくみ 地球環境の科学

専任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 健一 <平成32年4月> 修士(教養)
		中国語 1 中国語 2
兼任	講師	久野 雅司 <平成31年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化
兼任	講師	山田 貴浩 <平成31年4月> 博士(工学)
		統計のしくみ 地球環境の科学
兼任	講師	帆苺 基生 <平成31年4月> 修士(文学)
		文学の世界
兼任	講師	阿部 慶徳 <平成31年4月> 修士(政治学)
		政治学入門
兼任	講師	野村 光義 <平成31年4月> 修士(学術)
		世界の歴史と文化

専任・兼任の別	職名	氏名
		担当授業科目名
兼任	講師	吉田 健一 <平成32年4月> 修士(教養)
		中国語 1 中国語 2
兼任	講師	久野 雅司 <平成31年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化
兼任	講師	山田 貴浩 <平成31年4月> 博士(工学)
		統計のしくみ 地球環境の科学
兼任	講師	帆苺 基生 <平成31年4月> 修士(文学)
		文学の世界
兼任	講師	阿部 慶徳 <平成31年4月> 修士(政治学)
		政治学入門
兼任	講師	野村 光義 <平成31年4月> 修士(学術)
		世界の歴史と文化 日本語リテラシー ことばの科学
兼任	講師	青木 茂治 <令和2年4月> 修士(地域研究)
		英語C1 英語C2

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

- ・平成31年3月、藤原孝之教授、就任辞退。
- ・平成31年4月、コウアーチェン教授、担当科目を追加（理学療法学概論、健康医療科学研究方法論2、臨床推論演習、運動療法学総論）。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年4月、萩原久佳准教授、担当科目を追加（リハビリテーション概論、神経機能理学療法学、神経機能理学療法学演習1、地域理学療法学）。平成31年1月教員審査済み。
- ・平成31年3月、濱岡克何講師、就任辞退。
- ・平成31年4月、奥村賢兼任講師、辞任により久吳高之兼担教授に変更（芸術の世界）。
- ・平成31年4月、山口憲二兼担教授の担当科目を金世煥兼担教授に変更（経営学入門）。
- ・平成31年4月、大嶋淳俊兼担教授辞任により、山口憲二兼担教授に変更（経済学入門）。
- ・平成31年4月、能地克宜兼担教授辞任により、帆刈基生兼任講師に変更（文学の世界）。
- ・平成31年4月、松本麻子兼担教授、教授へ昇格。
- ・平成31年3月、大津理香兼担教授辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・平成31年3月、田中美和兼担教授辞任。（共同担当教員がいるため支障はない）
- ・平成31年4月、和足憲明兼担教授辞任により、菅野昌史兼担教授へ変更（暮らしのなかの憲法）。
- ・平成31年4月、和足憲明兼担教授辞任により、阿部慶徳兼任講師へ変更（政治学入門）。
- ・平成30年4月、永田隆之兼担助教、准教授へ昇格。
- ・平成30年4月、江藤忠洋兼担助教、准教授へ昇格。
- ・平成30年4月、佐藤陽兼担助教、准教授へ昇格。
- ・平成31年4月、齋小裕兼任講師辞任により、野村光義兼任講師へ変更（世界の歴史と文化）。
- ・平成31年9月、藤原孝之教授就任辞退により、橋本隆哉兼担教授に変更（リハビリテーション医学）。

【令和2年度】

- ・平成31年3月、濱岡克何講師就任辞退に伴う後任について、令和2年6月より、今野裕樹助教就任予定。
- ・令和2年3月、齋藤知行教授、就任辞退。なお、令和2年度のみ「整形外科学」の担当を今野裕樹兼任講師、仲山勉兼任講師に変更。
- ・令和2年3月、福士勇人助教辞任に伴う後任について、令和2年6月より、岡野怜己助教就任予定。
- ・令和2年4月、三好圭准教授、担当科目を追加（老年期理学療法学）。令和2年1月教員審査済み。
- ・令和2年4月、齋門良紀助教、担当科目を追加（健康医療科学研究方法論2、生体応用計測論）。令和2年1月教員審査済み。
- ・令和2年4月、佐藤博史助教、担当科目を追加（高次脳機能治療学）。令和2年1月教員審査済み。
- ・令和2年4月、山崎洋次兼担教授辞任により、氏家二郎兼任講師に変更（小児科学）。
- ・令和2年4月、宮本聖也兼担教授就任辞退により、令和2年度のみ「精神医学」の担当を兼任講師に変更予定（令和2年6月より兼任講師4名採用予定）。
- ・令和2年4月、「老年医学」の担当科目を追加（暁沢龍人兼任講師）。
- ・令和2年4月、松本麻子兼担教授辞任により、内田澤子兼担教授、玉懸元兼担教授、中島清州兼担教授、姜惠彬兼担教授、野村光義兼任講師に変更（日本語リテラシー）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、ティモシークック兼担教授、勅使河原智子兼任講師、亀岡浩一兼任講師に変更（英語A1、英語A2）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、ティモシークック兼担教授、鯨岡アリソン兼任講師に変更（英語B1、英語B2）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、ティモシークック兼担教授、青木茂治兼任講師、亀岡浩一兼任講師に変更（英C1、英語C2）。
- ・令和2年4月、高橋義考兼担教授辞任により、藪鐘民兼任講師に変更（コンピュータリテラシー）。
- ・令和2年4月、「健康・スポーツ1」、「健康・スポーツ2」の担当科目を追加（根本昌樹兼任講師）。
- ・令和2年4月、西村康平兼担教授辞任により、野村光義兼任講師に変更（こぼの科学）。
- ・令和2年4月、菊池真弓兼担教授辞任により、令和2年度休講（ジェンダー論）。
- ・令和2年4月、高橋義考兼担教授 退職（自然科学のあゆみ）。
- ・令和2年4月、「生命の科学」の担当科目を追加（片桐拓也兼担教授、丹治貴博兼担教授）。
- ・令和2年4月、「食品の科学」の担当科目を追加（堀一之兼担教授）。
- ・令和2年4月、金世煥兼担教授、教授へ昇格。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
4	4	4	3	15	0	2	4	3	2	11	0
(3)	(4)	(3)	(3)	(13)	0						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
2	4	3	2	11	0	4	4	4	3	15	0
[△2]	[0]	[△1]	[△1]	[△4]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{11}{15} = \boxed{73.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
1	教授	藤原 孝之	H31.3	必修	リハビリテーション医学	①	H31.3 私事都合のため就任辞退（元）		
				必修	リハビリテーション概論	①			
				必修	理学療法概論	①			
				選択	理学療法教育と管理	①			
				選択	健康医療科学研究方法論2	①			
				選択	生体応用計測論	①			
				必修	運動療法学総論	①			
				必修	理学療法セミナーⅠ	①			
				必修	理学療法セミナーⅡ	①			
2	講師	濱岡 克何	H31.3	必修	理学療法評価学演習Ⅱ	①	H31.3 私事都合のため就任辞退（元）		
				必修	理学療法評価学演習Ⅲ	①			
				必修	臨床推論演習	①			
				必修	神経機能理学療法学	①			
				必修	神経機能理学療法演習Ⅰ	①			
				必修	老年期理学療法学	①			
				選択	高次脳機能治療学	①			
				必修	地域理学療法学	①			
				必修	地域理学療法演習	①			
				必修	臨床実習Ⅰ	①			
				3	教授	齋藤 知行		R2.3	必修
必修	チーム医療と医療安全	①							
必修	卒業研究Ⅰ	③							
必修	卒業研究Ⅱ	③							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3	人	必修	19 科目	必修	16 科目	必修	1 科目	必修	2 科目
		選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	23 科目	計	20 科目	計	1 科目	計	2 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	助教	福士 勇人	R2.3	必修	フレッシュヤーズセミナー	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任（2）		
				必修	人体の構造演習	①			
				必修	理学療法評価学演習Ⅲ	①			
				必修	理学療法評価学演習Ⅳ	①			
				必修	理学療法評価学演習Ⅴ	①			
				必修	内部障害理学療法演習Ⅰ	①			
				必修	内部障害理学療法演習Ⅱ	①			
				必修	理学療法セミナーⅠ	①			
				必修	理学療法セミナーⅡ	①			
				必修	見学実習	①			
				必修	臨床実習Ⅰ	①			
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1	人	必修	11 科目	必修	11 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	11 科目	計	11 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
4 人	必修	30 科目	必修	27 科目	必修	1 科目	必修	2 科目
	選択	4 科目	選択	4 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	34 科目	計	31 科目	計	1 科目	計	2 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{4}{15} = 26.66 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし							
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の辞任(交代)に関しては、止むを得ない理由と認識しており、教育内容、効果の低下を招かないよう後任の補充を予定している。学生に対しては、シラバス及び期首のオリエンテーション等において周知を図っている。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年8月)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、教員補充について検討していく。中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編製の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編製の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)</p>	<p>該当なし</p>		

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年8月)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (令和2年3月)</p>	<p>1. 入学定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>1. 1年次後期の配当科目である「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」及び「疾病治療論Ⅰ」について、各科目内容における学修の順序性が重要となるため、教育効果があるような授業展開とすること。</p>	<p>留意事項</p> <p>留意事項を踏まえ、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」および「疾病治療論Ⅰ」では、科目内容に変更が生じないように留意しつつ、他科目との科目内容の重複や進捗状況を鑑みた上で、学修の順序性に齟齬がでないようシラバスの再検討や教育効果があがるよう配慮した授業を展開すべく準備をすすめてきた。</p> <p>(29)</p> <p>時間割上で、「疾病治療論Ⅰ」を学んだ後に、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」を学修できるよう配置している。また、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の授業内容は、疾病等による障害のアセスメントも含んでいるが、主に人間の生活面に視点をあてたアセスメントを学修できるようにしている。昨年学生の到達度、成績、授業アンケートをみても、授業効果が上がっていると考えている。</p> <p>(元)</p>	<p>履行済</p> <p>今年度授業を実施した後、成績や授業アンケートの結果を利用して科目内容の検証を実施し、必要に応じては、科目内容の変更も検討していく。 授業内容を変更する際は、事前に設置審査委員会に諮ることとする。</p> <p>(29)</p> <p>(元)</p>
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までには教員を充足すること。</p>	<p>留意事項</p> <p>教員の補充を必要とされた「地域養生看護学（在宅援助）」については、開講年次（2年後期）までに兼任を補充して対応する予定である。</p> <p>(29)</p> <p>専任教員により「地域養生看護学（在宅援助）」を開講しているが、該当領域の教員が兼任教員の確保に努めている。</p> <p>(元)</p> <p>地域養生看護学（在宅援助）については、専任教員の充足はかなわなかったが、現任教員で科目を担当し、十分な教育を行っているため特に支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>該当領域の教員が兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(29)</p> <p>該当領域の教員が継続して兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(元)</p> <p>今後も、当該領域の教員が継続して教員の確保に努めていく。</p> <p>(2)</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>法人の経営委員会人事検討部会について、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を実施しており、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>法人の経営委員会人事部会において、毎年、教員補充についての検討を行っている。中期的には看護学部完成年度までに、各専門領域における教員組織編制の将来構想について検討していく。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、継続して教員補充について検討していく。また、各専門領域における教員組織編制の将来構想についても併せて検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)</p>	<p>該当なし</p>		

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	指 摘 事 項 (改善)	履 行 状 況	履 行 中	今 後 の の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年3月)	1. 専任教員数が認可時の計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めること。	指摘事項 (改善)	着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会を立ち上げ、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努めている。 (元) 着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募しており、確実に履行するよう努めている。 (2)	履行中	今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 (元) 今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。 (2)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	各領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力している。また、教員体制の継続性の担保に関しては、広い範囲で各教員の担当科目を見直し教員配置が出来るように努めている。 (2)	履行中	今後も、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。 (2)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	2. 実習科目や演習科目をはじめとして、教員の指導体制の充実を図り、学生に対するきめ細やかな履修指導を行うとともに、学生に対する履修情報の周知・徹底に努めること。	指摘事項 (改善)	履修の手引を学生に分かりやすく内容を修正し、それを用いて各学年主任が丁寧に履修指導を実施している。また、別途指導が必要な学生には、チューターが個別指導に努めている。 (2)	履行中	実習委員長、領域の実習責任者、担当教員の組織体制を充実させる。また、学生に対してきめ細やかな履修指導ができるよう、履修の手引等による周知を徹底させる。 (2)

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年9月)</p>	<p>1. 健康医療科学部作業療法学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年3月)	該当なし		

生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年3月)	1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。 遵守事項	研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 生命理工学研究科については、現在退職教員の補充、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。 (2)	研究科内の「教員人事在り方検討委員会」にて、中期的な、教員組織編成の将来構想について検討していく。 (2)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<健康医療科学部 理学療法学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>FD・SD委員会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">FD・SD委員会細則</p> <p style="text-align: right;">平成19年4月1日 制 定</p> <p>(趣旨)</p> <p>第1条 この細則は、医療創生大学学則（昭和62年4月1日）第65条第2項及び医療創生大学大学院学則（平成4年4月1日）第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。</p> <p>(1) 教育研究活動改善の方策に関する事項</p> <p>(2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項</p> <p>(3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項</p> <p>(4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行</p> <p>(5) 授業評価の実施と結果に関する事項</p> <p>(6) 職員のSDに関する事項</p> <p>(7) その他FD・SDに関する事項</p> <p>(委員会の構成及び任期)</p> <p>第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。</p> <p>(1) 各学部を代表する教員</p> <p>(2) 事務局を代表する職員</p> <p>(3) その他学長が必要と認めた者</p> <p>2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。</p> <p>3 委員の任期は、学長が定める。</p> <p>(委員長)</p> <p>第4条 委員会に委員長を置く。</p> <p>2 委員長は、学長が指名する。</p> <p>(委員会の招集)</p> <p>第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。</p> <p>(任務)</p> <p>第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。</p> <p>(雑則)</p> <p>第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。</p> <p>(事務)</p> <p>第8条 委員会の事務は、教務課が当たる。</p> <p>(雑則)</p> <p>第9条 この細則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の意見を聴き、学長が定める。</p> <p>(改廃)</p> <p>第10条 この細則の改廃は、委員会の議を経て、学長が行う。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成19年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成22年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成26年4月1日から施行する。</p> <p>附 則</p> <p>この細則は、平成27年4月1日から施行する</p> </div>

附 則
この細則は、平成29年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成30年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成31年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

毎月1回実施（ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合がある。）

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業参観制度の実施

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施
委員会において企画立案し実施している。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして実施している。
- ・授業改善アンケートの実施
前期及び後期の授業終了時期に授業内容に関するアンケートを学生に対して実施している。
- ・授業参観制度の実施
教員相互による授業参観制度を導入しており、見直し・検討を行いながら、教育力の向上に努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施
全学FD・SD研修会（令和元年度：1回）
第1回（令和元年9月）：参加率 81.3%
- ・授業改善アンケートの実施
前期：参観者数 124名
後期：参観者数 99名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会については、大学改革の喫緊の課題をテーマとし、ICT活用による授業改善等、普段の授業展開（改善）に貢献している。
- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をとおして、担当教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みづくりを検討しており、授業参観制度を導入し、検証を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了時期に実施（前期：7月～9月）

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員：担当科目の結果を個別にフィードバック、ホームページで公開

学生：ホームページで公開

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
- ・学部完成までは申請時の教育課程を履行しつつ、将来に向けて検証が必要となる。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
- ・平成23年4月 公表
 - ・令和2年10月 公表予定
- b 公表方法
- ・大学ホームページ上に公開中
 - ・大学ホームページ上に公開予定（令和2年10月末を予定）
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・平成30年度に評価機関（大学基準協会）の大学評価（認証評価）を受けた結果、「現時点での判定を保留」となり、令和3年度までに再評価を受けるよう指示があった。
- 本学では、令和2年4月に再評価の申請をした。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和2年度）
- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]
- ≪ aで「有」の場合 ≫
- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]
- ≪ aで公表「無」の場合 ≫
- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。